

知 床 白 書

平成20年度 知床世界自然遺産地域年次報告書

知床世界自然遺産地域科学委員会事務局

知床世界自然遺産地域連絡会議事務局

環境省釧路自然環境事務所

林野庁北海道森林管理局

北 海 道

目 次

平成 20 年度 知床世界自然遺産地域の主な動き 1

知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況

1. 陸上生態系及び自然景観の保全 2
2. 海域の保全 7
3. 海域と陸域の相互関係の保全 7
4. 自然の適正な利用 8
5. 遺産地域の管理に係る関係行政機関及び地元自治体の体制 1 2
6. 保全・管理事業の実施 1 2
7. 調査研究・モニタリング 1 3
8. 気候変動の影響への対応 1 3
9. 年次報告書の作成 1 3
10. 情報の共有と普及啓発の推進 1 4

平成 20 年度知床世界自然遺産地域の現況

1. 知床世界自然遺産地域の利用状況 1 5
2. 知床地域におけるハード事業の実施状況 2 7
3. 知床地域の保全管理（ソフト事業）の状況 4 2
4. 各種会議の開催状況 5 5

平成 20 年度 知床世界自然遺産関連の主な動き

平成 20 年度は世界遺産委員会において知床の保全状況審査が行われた年であり、7 月 2 日（水）～10 日（木）に、ケベック市（カナダ）にて開催された第 32 回世界遺産委員会において知床世界自然遺産に関する審査が行われ、ユネスコ世界遺産センター及び国際自然保護連合（IUCN）による現地調査（平成 20 年 2 月）の報告書に基づく決議が採択された。決議では、世界遺産一覧表記載時の勧告に我が国が効果的に対応していることを賞賛するとともに、ユネスコ世界遺産センター及び IUCN による現地調査（平成 20 年 2 月）の報告書の内容のうち 9 項目について重点的に取り組むよう要請し、その実施状況についての報告を平成 24 年 2 月 1 日までに世界遺産センターに提出するよう求めている。

- 国際自然保護連合（IUCN）が作成した現地調査（平成 20 年 2 月 19 日～22 日）の報告書「知床世界自然遺産地域の保全状況に関する調査報告書」がユネスコ世界遺産センターから送付される（平成 20 年 5 月）。
- 現地調査の報告書に対するコメントをユネスコ世界遺産センターに提出（平成 20 年 6 月 9 日）。
- カナダのケベックで開催された第 32 回世界遺産委員会（平成 20 年 7 月 2 日～10 日）において、知床の保全状況の最終的な評価がなされる。

環境省、林野庁、文化庁及び北海道は、知床の保全状況に関するユネスコと国際自然保護連合からの決議内容等を踏まえ、有識者からなる知床世界自然遺産地域科学委員会の助言を得つつ、現行の「知床世界自然遺産候補地管理計画」を全体にわたって見直し、「知床世界自然遺産地域管理計画」を作成している。この計画は、関係行政機関や関係団体が緊密な連携を図り、知床世界自然遺産地域を適正かつ円滑に管理することを目的として、各種制度の運用及び各種事業の推進等に関する基本的な方針を明らかにするものである。

環境省は知床岬地区においてエゾシカの密度操作実験を平成 20 年度も実施した。平成 19 年度と平成 20 年度で合計 182 頭のエゾシカを捕獲しており、平成 20 年度に実施した調査ではイネ科やササに回復傾向が認められた。

7 月から 10 月にかけて、環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町の 5 機関が連携して、知床連山羅臼岳における携帯トイレの現地販売体制の整備、使用済み携帯トイレの回収・処理、普及啓発活動、現地でのアンケート調査等を実施した。

知床国立公園利用適正化検討会議では、「3 つの柱と 10 の約束」からなる「知床半島中央部地区利用の心得」をとりまとめた。この心得は、知床五湖、知床連山、羅臼湖等を含む知床半島中央部地区を利用するにあたって、特に必要性が高い留意事項、禁止事項について取りまとめたものである。

環境省、北海道、斜里町は、ヒグマの出没による頻繁な歩道の閉鎖や踏みつけによる植生の荒廃等の課題を踏まえ、「知床五湖の利用のあり方協議会」を立ち上げ、知床五湖地上歩道の利用のあり方について地元関係団体等との協議を開始した。また、電気柵を備えた高架木道を延長した。

知床世界自然遺産地域連絡会議では、知床世界遺産を広くアピールするため、「知床世界遺産」のシンボルマークを公募により選定した。平成 21 年度以降、シンボルマークの利用の推進を図る予定である。

斜里町ウトロ地区に「知床ボランティア活動施設」がオープンした。知床の森林の情報発信の場、また森林ボランティア活動等に関する研修や意見交換、森林づくり活動を行う団体の活動拠点となる施設である。

知床世界自然遺産地域管理計画の実施状況

1. 陸上生態系及び自然景観の保全

野生生物の保護管理

植物

環境省では、知床沼、知床岳地区の植生調査（エゾシカの採食圧調査を兼ねる）および沿岸域希少・在来植物群落調査を実施した。知床沼付近では 1980 年の調査と比較して植物の多様性の低下や植生の衰退が確認され、その原因は登山者の踏圧による他、エゾシカによる踏みつけと食害によると考えられた。ウナキベツ川上流の標高 400m 地点においては越冬地と同様の特徴がみられ、エゾシカの強い採食圧が生じていると推察された。今年度は悪天候のため知床岳山頂周辺において調査区を設置できなかったため、今後調査区の設置が求められる。斜里側の沿岸域では、エゾシカの採食圧が植生に影響を与えていることが観察されたが、シカの接近が難しい立地においては高茎草本群落等が良好な状態で保存されていることも確認された。また、人の踏みつけによる植生の損傷が報告されている知床連山二つ池において、登山道の付け替え等の対策の検討を実施した。

林野庁では、知床岬およびルシャ周辺の国有林において 9 本の混合ベルト調査を実施した。調査の結果、両地区とも直径 10cm 以下の樹木に枯死が多かった。知床岬では直径の大きな樹木でも多くの枯死が見られた。また、調査区域内で見られたエゾシカによる樹皮食いはほとんどが古いものであったが、ルシャの低標高部や知床岬では、ササ密度の低いこと、忌避植物の割合が高いことなどから、今後は樹皮食いに伴う樹木の枯死が増加するものと示唆された。

環境省が実施した知床岬での侵入防止柵調査では、ガンコウラン群落に柵内において、ガンコウラン等の個体数がゆるやかに増加していたが、一方で山地高茎草本群落に設置した柵内ではセリ科植物の減退が観察された。知床岬におけるイネ科草本とササの調査においては、平成 19 年度と比較してイネ科草本の生産量とササの被度・桿高が増加しており、密度操作実験によりエゾシカの利用が減少したことが示された。

また、林野庁が実施した知床岬の防鹿柵の調査において、防鹿柵内外の森林を比較したところ、高木の成長や枯死率には目立った差が無かった。これは、防鹿柵の設置がエゾシカの採食圧を強く受けた後だったためと考えられるが、エゾシカに強く影響を受けた森林は、防鹿柵を設置しても直ちには樹木の成長が回復に転じないことが推察された。

硫黄山において実施したシレットコスミレの生息状況調査において、合計 11 株にエゾシカとみられる採食痕が初確認された。シレットコスミレの成熟個体は 37,000 個体程度確認されているものの、生育地面積は 10 km² と限られているため、採食による影響を引き続き注意深く観察する必要がある。

(b) 2008年10月3日(8月14日設置)

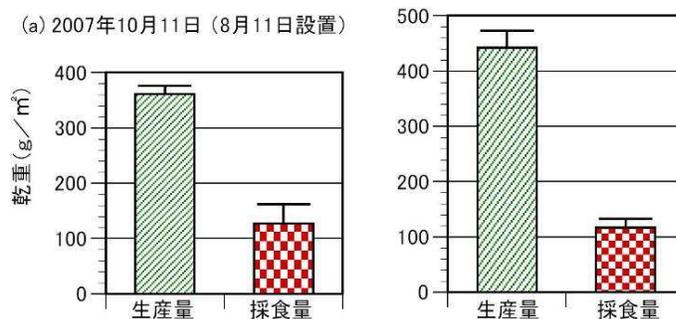


図. 知床岬におけるイネ科草本の生産量と採食量.



写真. シレットコスミレにおけるエゾシカの採食痕

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
各種保護制度に基づく適正かつ効果的な管理。	原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域の各種保護制度を適正に運用した。	43	知床岳周辺の高山帯の植生調査を実施する。
調査研究・モニタリングを行い、その結果を基に人為的な影響の軽減、適切な保全対策の実施。(特に知床連山、知床沼周辺、知床岬等)	知床岬、知床岳周辺の植生調査、沿岸植生調査、シレットコスミレ調査、植物種インベントリ作成、知床岬先端部の植生図作成を実施した。		
シレットコスミレやチシマコハマギク等の希少種の盗掘防止のためのパトロール強化。	環境省、林野庁、北海道において巡視を実施した。		
エゾシカの採食圧による自然植生への影響把握(特に越冬地周辺部、高山帯、海岸)と対策の検討。	知床岬、知床岳周辺の植生調査、沿岸植生調査、岩尾別での防鹿柵調査を実施した。		
知床岬地区のエゾシカ侵入防止柵等による地域固有の遺伝子資源の保存と植生の回復状況モニタリング、保護対策の検討。	知床岬での採食量調査・防鹿柵調査を実施した。		
外来植物(海岸を中心)の侵入・定着実態の把握と防除や普及啓発等の対策検討。	沿岸植生調査を実施した。	37	斜里側の沿岸部の植生調査を実施する。
「しれとこ 100 平方メートル運動地」での森林の回復事業。	防鹿柵の設置等を実施した。		

動物

高密度状態が続くエゾシカによる採食圧は知床世界自然遺産地域およびその周辺の環境に多大な影響を及ぼしており、樹皮食いによる特定樹種の激減と更新不良、林床植生の現存量減少と多様性低下、および海岸性植物群落とそれに含まれる希少植物の減少などの事例が報告されている。エゾシカの高密度状態がさらに長期化した場合、希少な植物個体群の絶滅、高山植生への影響、急傾斜地の土壌浸食など、植生に対して深刻な影響を与える可能性が高いと考えられる。そのため、環境省では、知床財団と猟友会の協力のもとに、知床半島エゾシカ保護管理計画に基づき、知床岬地区で試験的な個体数調整を実施した。銃器を用いた捕獲により、平成 21 年 3 月までで合計 182 頭を捕獲したが、捕獲の回数を重ねるたびにエゾシカが捕獲に慣れ、捕獲効率が落ちているため、今後科学委員会のもとに設置されているエゾシカWGにおいて捕獲手法の効率化や他の地域での密度操作実験の実施を含め検討することとしている。

表. シカ密度操作実験における捕獲実績

捕獲期日	捕獲頭数	捕獲個体の内訳				巻狩回数	動員射手
		成獣	0歳	成獣	0歳		
1年目捕獲(H19年末)							
	33	24	2	1	6	狙撃+巻狩り	75
1年目捕獲(H20年春)							
	99	65	8	17	9	27	97
1年目合計							
	132	89	10	18	15	27	172
2年目捕獲(H20年末)							
11月27日	38	26	1	7	4	1	17
12月3日	5	2	2	0	1	2	20
12月17日	7	6	0	1	0	2	21
小計	50	34	3	8	5	5	58
H20年度までの合計							
	182	123	13	26	20	32	230

成獣は下顎切歯により、1歳以上と簡易判定された個体を表す。

平成20年度は住民や利用者とのトラブルのため、合計10頭のヒグマを有害捕獲した。また、ヒグマ対策活動として合計465件の追い払い、誘因物の除去等の活動を実施した。知床財団はヒグマの生息状況調査を実施しており、5頭に電波発信機を装着し行動追跡を行い、繁殖や死亡、越冬状況に関する情報の収集を行った。引き続き人とヒグマとのトラブルの解消のため、効果的な対策を検討する必要がある。

表 平成20年度有害捕獲個体一覧

捕獲場所	捕獲日	推定年齢	性別	体重(kg)	捕獲環境	捕獲要因
斜里側						
幌別川左岸	11/9	3歳		170	漁業者作業場	国道脇に頻繁な出没、車に接近
羅臼側						
セセキ	6/2	1歳		38	天然林	道道脇に頻繁に出没、人間に接近
昆布浜	6/18	2歳		84	海岸	露天風呂・番屋周辺に出没
赤岩	6/28	2歳		69	海岸	番屋周辺に頻繁に出没、飼い犬に被害
湯ノ沢	7/20	成獣		71	天然林	キャンプ場周辺に出没
湯ノ沢	7/20	成獣		97	天然林	キャンプ場周辺に出没
相泊	8/30	成獣		105	漁港内斜路	漁港内に侵入
昆布浜	12/3	成獣		120	天然林	道道脇に頻繁に出没、追い払いに無反応
昆布浜	12/3	0歳		32	天然林	同上
昆布浜	12/3	0歳		31	天然林	同上

資料：平成20(2008)年度国立公園等民間活用特定自然環境保全活動(グリーンワーカー)事業「知床世界遺産地域における利用の適正化と野生生物との共生推進業務」報告書

シマフクロウについては平成5年11月26日に策定(環境庁・農林水産省)された保護増殖事業計画に基づき、生息状況調査及び標識調査を実施するとともに繁殖個体の性別判定及び個体の健康管理のため

めの血液分析を実施している。また、捕食者対策として、アライグマについての記録が知床であることから、箱わなや赤外線自動撮影装置カメラを設置して調査を実施している。

オオワシ・オジロワシについては、平成17年12月1日に策定（文部科学省、農林水産省、国土交通省、環境省）された保護増殖事業計画に基づき、オオワシ・オジロワシが越冬期に利用している各地域の餌資源の種類をリストアップするとともに、入手可能時期と量、利用している個体数等の概略を明らかにすることで、越冬環境の現状を把握し、適切に保全していく上での基礎データを蓄積しているところである。また、人為的餌資源の影響については、観光船による餌付けのみならず、氷下待網漁、港や水産加工場などから出される残滓等、実態を把握するとともに、周辺地域の餌資源量との関係を含め専門家による調査・検討を行っている。あわせて、自然性の餌資源環境や自然河川利用形態についても調査を進めている。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
各種保護制度に基づく多種多様な野生動物の生息地の保全と野生動物の適正な管理。	原生自然環境保全地域、国立公園、森林生態系保護地域、鳥獣保護区の各種保護制度を適正に運用した		
著しく増加あるいは減少した野生動物について生息状況と変動の要因の把握及び必要な対策の検討。	猛禽類調査や鳥類相モニタリング等を実施した。	43	必要に応じて、野生動物の生息状況調査を実施する。
調査研究の推進と、必要に応じて個別の野生動物毎の保護管理計画の検討。	エゾシカ、ヒグマ、猛禽類、海ワシ類、鳥類の調査を実施した。	42、43	適切なヒグマの保護管理手法を検討する。
人の利用の適正な誘導、餌やり等の防止、ゴミの持ち帰り等の指導、野生動物の生態等に関する普及啓発の推進。	「利用の心得」の策定と普及啓発を実施した。	42	効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。
ルシャ、テッパンベツ川流域での植物の採取・損傷、たき火、車馬の乗入れ、撮影その他、野生鳥獣の生息に影響を及ぼす行為の規制。	鳥獣保護法の適正な運用を実施した。		ルシャ、テッパンベツにおける効果的な撮影防止方策を検討する。
(a) エゾシカ 「知床半島エゾシカ保護管理計画」に基づく保護管理。 北海道全体のエゾシカの管理と緊密な連携の確保。	エゾシカWGの助言を得つつ、密度操作実験等の保護管理を実施した。		

<p>(b) ヒグマ 行動調査や生息環境の利用状況調査等の結果を踏まえ個体群動態を把握し、適正な保護管理を実施。</p> <p>誘引物の除去、追い払い等の対応、利用者の行動制限を含む利用システムの構築、適切な施設整備及び利用者等への普及啓発、情報提供の実施。</p>	<p>生息状況等の調査及びヒグマ対策活動を実施した。</p> <p>ヒグマ対策活動を実施した。知床五湖において利用調整の検討と高架木道の整備等を実施した。</p>		<p>適切なヒグマの保護管理計画手法を検討する。</p>
<p>(c) シマフクロウ 保護増殖事業計画に基づいた保護増殖事業の実施。</p> <p>つがいの生息が確認されている河川の周辺の自然環境を極力、現状のまま維持。また、必要に応じ生息環境の改善。</p> <p>入り込み者への指導の実施。繁殖状況把握のためのモニタリング調査、巣立ちビナの移動分散・生存状況を把握するための標識調査等の実施。</p>	<p>各種制度の適正な運用により生息環境の維持に努めた。また、一部河川工作物の改良を実施した。</p> <p>生息状況、繁殖状況調査及び幼鳥への標識の装着を実施した。</p>	38	
<p>(d) オオワシ・オジロワシ 海岸斜面の森林の保全。繁殖期における利用者への指導、普及啓発の実施。 北海道内でのエゾシカ猟における鉛弾の使用禁止の徹底。</p> <p>保護増殖事業計画に基づく餌資源調査等の推進。また渡りルートの解明や行動生態の把握の実施。</p>	<p>各種制度の適正な運用により森林の保全に努めた。</p> <p>渡りルート調査や自然河川利用形態調査等を実施した。</p>		

自然景観の保全

斜里町と環境省において知床岬地区における海岸清掃を実施した。また、環境省において、漂着ゴミの除去のための予算の獲得を行った。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
保護地域制度に基づく、規制等の	原生自然環境保全地域、国立公		

適正な運用。植生の保護・回復や生態系の管理に係る事業の実施等を通じた、遺産地域の優れた自然景観の保全。	園、森林生態系保護地域等の保護制度を適正に運用した。		
海岸部に漂着したゴミ等の除去。	ボランティア等による漂着ゴミの除去を実施した。	42	効果的な漂着ゴミの除去手法について検討する。

外来種への対応

2008年9月に知床岬付近で2頭のセイヨウオオマルハナバチのオスが発見・捕獲され、また環境省が実施している市民参加による防除活動では斜里町および羅臼町において440頭の捕獲が報告された。引き続きセイヨウオオマルハナバチへの監視体制を強化し、有効な防除手法等を検討する必要がある。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
定着実態の把握と有効な対策や普及啓発等の実施。	アザミ駆除、アライグマ・マルハナバチの調査等を実施した。	43	引き続き有効な対策について検討する。
特定外来生物に係る行為規制の適切な運用と普及啓発の実施。			
ブラントラウト、カワマスなど5魚種の移植禁止に係る普及啓発の実施。	フィッシングルール2008やポスター、看板により遊漁者などに対する啓発を行った。		

2. 海域の保全

海域管理計画に基づいた管理を実施した。また、同管理計画に基づく定期報告書を作成した。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
「知床世界自然遺産地域多利用型統合的・海域管理計画」に基づく、管理の実施。	海域WGの助言を得つつ、海域管理計画に基づいた管理を実施した。		

3. 海域と陸域の相互関係の保全

河川工作物の改良を行うとともにサケ科魚類の遡上モニタリング調査等を実施した。イワウベツ川(支流赤イ川)、ルシャ川及びサシルイ川では、改良により遡上が容易になっている状況が確認された。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
河川環境の保全 改良が適当と判断した河川工作物の改良の実施。改良後のモニタリ	河川工作物の改良については、イワウベツ川(支流赤イ川)で	38	引き続き工作物の改良とモニタリングを

<p>ング調査による状況把握と改良効果の検証の実施。</p>	<p>1基、チエンベツ川で1基を実施した。 また、既に改良工事を実施した3河川（イワウベツ川、ルシャ川、サシルイ川）についてモニタリング調査を実施した。</p>		<p>実施する。</p>
<p>サケ科魚類の利用と保全 「知床世界自然遺産地域多利用型統合的流域管理計画」に基づく持続的な利用と保全の推進。</p>	<p>海域WGの助言を得つつ、流域管理計画に基づいた管理を実施した。</p>		

4．自然の適正な利用

知床世界自然遺産地域の多くを占める知床国立公園地域において、平成20年、約195万人の観光客が訪れているが、多くの利用拠点の利用者数が前年度割れとなった。世界自然遺産登録時の平成17年または平成18年をピークにほとんどの地域が減少傾向にあり、登録前（平成16年）の水準もしくは、それ以下になっている。一方で、羅臼観光船、羅臼ビジターセンター、熊越の滝、知床岬への陸路での立ち入り、シーカヤック利用においては、増加傾向となった。知床五湖、幌別、カムイワッカ、知床峠及び羅臼温泉は利用者が多く、このうち、知床五湖には年間約50万人が自然探勝を目的に訪れている。利用形態は、従来から見られる大型バスによる周遊や観光船による遊覧等の団体での観光周遊や探勝利用だけでなく、近年は登山、トレッキング、シーカヤック等の体験型利用が増加してきており、質的な変化、多様化が進んでいる。

知床五湖では、春から夏を中心にヒグマが頻繁に出没することにより、閉鎖されることが多く、安定した利用が困難になっている。また、夏から秋は、混雑がひどく、歩道周辺の植物の踏みつけによる荒廃など自然環境への影響が懸念されるだけでなく、自然体験の質の低下が懸念されている。

これらの問題を解決するため、環境省、北海道、斜里町では、地域の関係者の意見も踏まえて、知床五湖地上歩道の利用のあり方を検討してきた結果、ヒグマの出没状況、植生の状況、利用者数を勘案し、電気柵を備えた高架木道を延長するとともに、利用期間をヒグマ活動期、植生保護期、自由利用期の3つの期間に区分し、この期間について、平成22年度から利用の調整を実施することが必要と判断した。

これらの状況を踏まえ、環境省、北海道、斜里町の3行政機関、同地区の公園管理団体、観光事業者、ガイド事業者、住民団体等、同地区の関係者が、円滑な実施協力に向けた合意形成を図るために、具体的な利用調整の計画等を検討する「知床五湖の利用のあり方協議会」を設置し、協議を行っている。

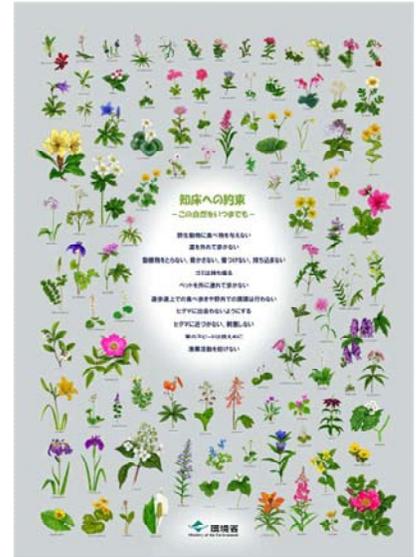
平成21年1月より、利用調整の期間中も一般利用者が自由に利用できる高架木道の延長工事が開始され、平成20年度には約280mが延長され、平成21年4月に供用が開始された。平成21年度中にさらに約300mが延長される予定である。

ヒグマ活動時に、認定ガイドが同行するグループのみが地上歩道を利用できる制度は、平成22年度から実施される予定である。

知床五湖、知床連山、羅臼湖等を含む知床国立公園知床半島中央部地区は、知床国立公園の中心的地区として、これまで多くの利用者の方々に親しまれてきたが、一部の利用拠点において過剰利用・集中利用による自然環境への悪影響が顕在化しつつある。

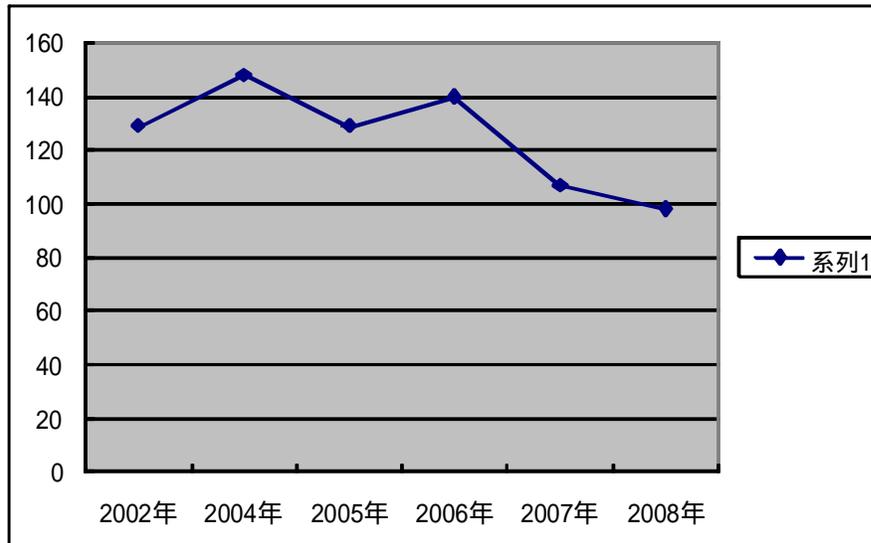
そのような状況を踏まえ、人類共通の財産である「知床」の持続的な保全を図り、より良い形で後世に引き継いでいくために、平成 21 年 1 月、『3つの柱と10の約束』からなる「知床半島中央部地区利用の心得」を定めた。この「利用の心得」は、「知床半島中央部地区利用適正化基本計画（平成 17 年度策定）」に基づき、知床国立公園知床半島中央部地区の利用に当たって、特に必要性が高い留意事項・禁止事項についてとりまとめたものである。

環境省では、ケイマフリの海上分布状況について、2008 年の 5 月から 8 月にかけて計 22 回、ウトロ港からエエイシレド岬までを往復し、個体数をカウントした。2008 年の最大カウント数は 98 羽と 2002 年以降も最も少ないカウント数となった。引き続きケイマフリの生息状況を調査するとともに、生息状況に影響を与えると予想される観光や漁業等の関係者に対し保全への協力を求めていくことが必要だと考えられる。



普及啓発用ポスター

図 ケイマフリの経年変化（2003 年はデータなし）



施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
利用の適正化 利用適正化基本計画に基づく適正な管理の推進。	H 2 0 年度実行計画を策定し、適正な管理を推進した。		
「利用の心得」の普及啓発の実施。	普及啓発用ポスター等を作成した。		効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。
必要に応じて利用調整地区の導入による利用者数、利用期間等の調	知床五湖における利用調整地区の導入を検討した。		引き続き知床五湖における導入の検討を

整の検討。			する。
<p>エコツーリズムの推進 「知床エコツーリズム推進計画」に基づく、人材の育成及び利用プログラムの構築と実践。</p> <p>「知床エコツーリズムガイドライン」の効果的な運用。</p>	<p>知床五湖の利用コントロール導入実験を実施、漁業体験ツアーの実施を行った。</p>		
<p>主要利用形態毎の対応方針 観光周遊 主要な利用拠点や展望地の適切な整備。</p> <p>自動車利用の適正化と環境に配慮した交通システムの構築の推進。</p> <p>シャトルバスの導入の可能性や効果の検討。</p> <p>カムイワッカ地区の夏期の自動車利用適正化対策の効果の検証。対策の一層の充実と具体化。</p> <p>知床五湖地区での効果的な利用の制限、誘導や普及啓発、施設整備のあり方、ヒグマの保護管理のあり方の検討と必要な対策の実施。</p> <p>知床横断道路での駐車規制の実施と道路の適切な維持管理。羅臼湖の適正な利用のあり方の検討。</p> <p>利用に伴う野生動物への悪影響を防ぐためのルールの普及啓発。</p>	<p>世界遺産センター等の整備を実施した。</p> <p>マイカー規制に係る利用者動態予測に関する調査を実施した。</p> <p>マイカー規制に係る利用者動態予測に関する調査を実施した。</p> <p>カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会において、対策等の検討を実施した。</p> <p>利用調整地区の導入の検討や高架木道の整備等を実施した。</p> <p>羅臼湖入口付近での駐車規制を実施した。利用適正化検討会議において利用のあり方を検討した。</p> <p>「利用の心得」の普及啓発を実施した。</p>	<p>29</p> <p>42</p> <p>42</p> <p>53</p>	<p>引き続き協議会において検討を実施する。</p> <p>引き続き利用調整地区の導入の検討と必要な施設整備を実施する。</p> <p>羅臼湖の利用のあり方について検討する。</p> <p>効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。</p>
<p>登山・トレッキング 自然環境保全上の配慮事項等の指導・普及啓発の実施。必要に応じて、利用の制限等の適切な措置の実施。</p>	<p>「利用の心得」の策定、普及啓発を実施した。</p>		<p>効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。</p>

<p>歩道等の適切な整備と維持管理。</p> <p>キャンプに係る利用者への指導の徹底。フードロッカー、フードコンテナ利用に関する指導、普及啓発の実施。し尿処理に関するルールやマナーの普及啓発。</p>	<p>羅臼岳登山道の補修等を実施した。</p> <p>知床連山において指導、普及啓発を実施した。 携帯トイレ利用促進事業を実施した。</p>	<p>32</p> <p>42</p>	<p>携帯トイレの普及をより一層推進する。</p>
<p>海域のレクリエーション利用 「知床岬地区の利用規制指導に関する申し合わせ」等による観光目的での上陸の抑制の徹底・強化。</p> <p>海域のレクリエーション利用のルールづくりと普及啓発の実施。</p> <p>「利用の心得」等に基づくシーカヤックでの利用の適正化。</p> <p>釣りを目的とした上陸場所の特定、関係法令・規則の遵守、ゴミの持ち帰りや釣り上げた魚の適切な処置等に関する指導の強化。</p> <p>ルールの遵守による漁業生産活動への支障の防止。</p>	<p>申し合わせに基づく上陸の抑制を実施した。</p> <p>「利用の心得」の普及啓発を実施した。</p>		<p>効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。</p>
<p>その他の利用 利用者への指導や普及啓発活動による野生動物の写真撮影や観察の抑制。ルシャ・テッパンベツ川流域での適正な指導、管理。</p> <p>冬期における雪上レクリエーション利用での事前指導や普及啓発の実施。雪崩等の危険区域の周知徹底。</p> <p>スノーモービルの乗入れや航空機の着陸の規制に係る巡視・取締りの実施。必要に応じ航空機の低空</p>	<p>「利用の心得」の普及啓発を実施した。</p> <p>スノーモービル乗入れ状況に関する巡視を行った。</p>		<p>効果的な利用の心得の普及啓発手法を検討する。</p>

飛行を行わないよう要請。			
必要に応じ流氷上でのレクリエーション利用のルールづくりの実施。			

5. 遺産地域の管理に係る関係行政機関及び地元自治体の体制



平成 20 年 5 月 9 日、斜里町ウトロ地区に「知床ボランティア活動施設」をオープンした。世界自然遺産に登録された豊かな生態系を有する知床半島において、国民の森林づくりに対する気運や地球温暖化防止対策等に対する意識を高めていくため、知床の森林をフィールドとし、個人、企業、団体等の多様な主体の参加による森林づくり活動・森林環境教育活動を推進するための取組を実施している。

「知床ボランティア活動施設」は、知床世界自然遺産を楽しみに訪れる多くの方々に立ち寄っていただける知床の森林の情報発信の場、また森林ボランティア活動等に関する研修や意見交換、森林づくり活動を行う団体の活動拠点となる施設である。

< 場 所 >	北海道斜里郡斜里町ウトロ東（国設知床野営場内）
< 開館時間 >	9:00～17:00（7、8月は9:00～19:00）水曜日および年末年始は休館
	http://www.hokkaido.kokuyurin.go.jp/shiretoko/index.htm （知床森林センターホームページ）

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
行政機関は、相互に必要な情報の共有を図り、緊密な連携の元に適切に管理を進める。	地域連絡会議の開催等により、適切な連携による管理を実施した。	51	

6. 保全・管理事業の実施

環境省、林野庁、北海道において、適正な利用や管理についての指導や施設の点検・清掃、森林現況の把握、標識等の点検・修理、美化啓発、山火事予防啓発、危険木の処理等の国有林の管理及び入林者の指導などを目的とした巡視を実施した。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
関係機関等による巡視 巡視体制の一層の充実・効率化に努める。	環境省、林野庁、北海道により巡視を実施した。	46	
保全・管理事業の実施 立入防止、植生復元、外来種の除去等を目的とした標識や柵等の設置。	老朽化標識の建替え・及び立入禁止標識の設置を実施した。		

美化清掃活動や施設の維持管理、 林野火災予防。			
知床世界遺産センターその他主要施設の運営方針 遺産地域の保安全管理や適正な利用に係る施設において、情報の収集・蓄積やルール・マナーの啓発、調査研究の推進等を実施するとともに、施設間の連携を図り、情報の交換、共有化を促進する。	知床世界遺産施設等運営協議会の立ち上げを行った。	55	引き続き協議会の開催等により連携の強化に努める。

7. 調査研究・モニタリング

科学委員会において長期的なモニタリング項目の絞り込みを実施した。

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
長期的なモニタリング及びその評価を実施する。特に気候変動に関するモニタリングを実施する。	科学委員会において長期的なモニタリング項目の絞り込みを実施した。		項目に基づくモニタリングの実施、手法の簡素化の検討を実施する。
調査研究（遺産地域の価値を裏付けるもの、特定の課題への対策を講じるためのもの、モニタリング手法の開発につながるもの等）を実施する。	サケ科魚類、コンブ類、プランクトン、猛禽類などに関する調査研究を実施した。	43、44、 45	
知床データセンターによる情報の共有を図る。	知床データセンターにて会議の結果や報告書等を公開した。	49	

8. 気候変動の影響への対応

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
モニタリングを実施するとともに、適応策を検討、実施する。			

9. 年次報告書の作成

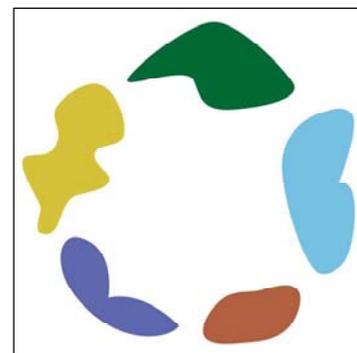
施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
年次報告書を取りまとめ、遺産地域の適切な管理に活かす。	年次報告書の素案を作成した。		科学委員会において記載内容等の検討を実施する。

10. 情報の共有と普及啓発

知床世界自然遺産地域連絡会議では、世界に誇る価値を有する知床世界自然遺産について、シンボルマークの公募・選定を通じて広く国民の皆様に関心を持っていただくとともに、地元団体や関係機関が一丸となって行う遺産地域の保全管理をより一層進めていくことを国内外にアピールしていくため、「知床世界自然遺産」のシンボルマークを定めることとし、平成21年1月16日から3月16日までの間、広く公募を行った。

全国から595点の応募作品が集まり、これらの作品に対して、3月27日に、地域連絡会議構成員、専門家からなる知床世界自然遺産シンボルマーク審査委員会による厳正な審査が行われ、シンボルマークとして最優秀作品が選ばれたほか、受賞作品が決定された。

シンボルマークは、地域連絡会議を構成する行政機関（環境省、林野庁、北海道、斜里町、羅臼町）の整備する各種関連施設において掲示するとともに、各主体が、パンフレット等の印刷物、ホームページ等において活用する。また、民間団体による利用についても推進していく。

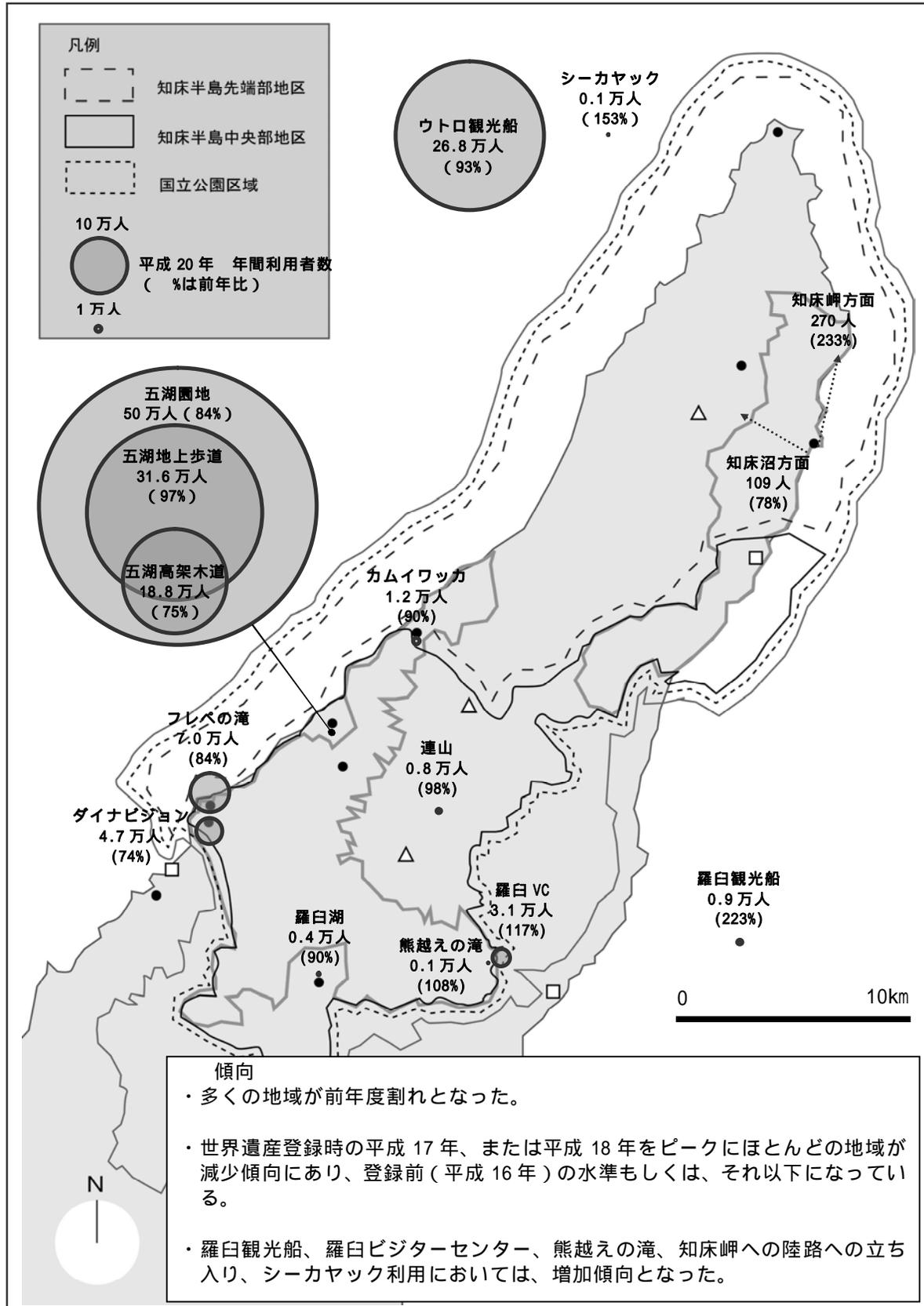


知床世界自然遺産シンボルマーク

施策の目標	進捗状況	ページ	今後の課題
地域住民、関係行政機関、関係団体、専門家等が自然のすばらしさ、保全・管理の状況、モニタリングのデータ等を共有する。	知床データセンター等を活用した情報共有を推進した。	49	
利用者に対し、野生動物への対処等のルール・マナーを周知する。	知床半島中央部地区利用の心得を策定し、普及啓発を実施した。		
国際機関や他の保護地域の関係者と管理体制等について情報を共有する。	知床データセンター等を活用した情報共有を推進した。		

平成 20 年度知床世界自然遺産地域の現況

1 . 知床世界自然遺産地域の利用状況



(1) 知床半島中央部地区の利用状況

知床五湖地域

五湖園地全体利用者数(駐車台数+シャトルバス利用)

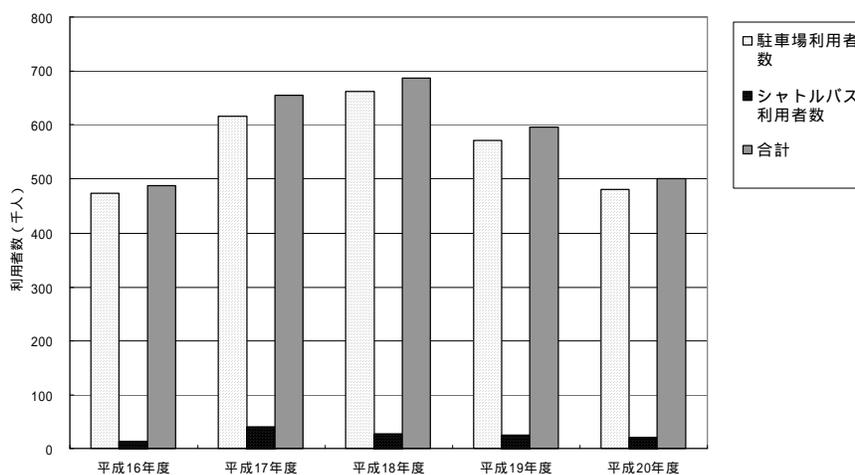


図 五湖園地全体利用者数年次変化

出典：自然公園財団及び斜里バス(株)

コメント：前年比16%減。世界遺産登録前とほぼ同等の入り込み。

高架木道・地上部歩道利用者数(五湖カウンター調査)

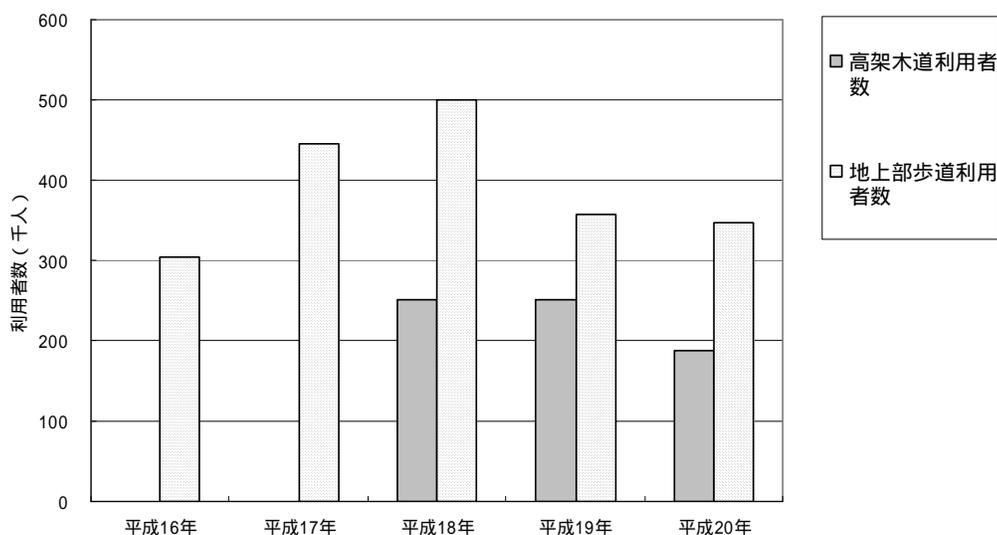
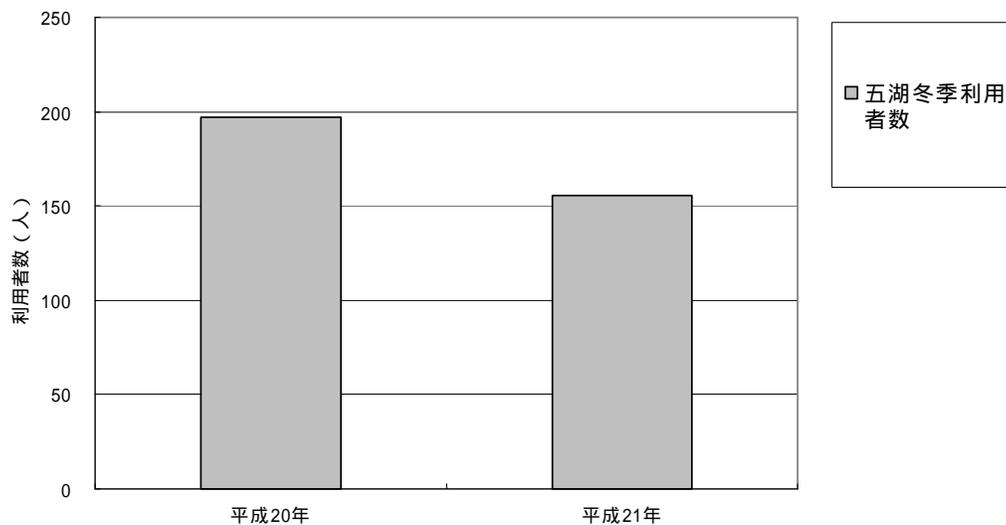


図 高架木道・地上部歩道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：地上歩道は前年比3%減。高架木道は前年比2.5%減。地上部歩道は世界遺産登録前とほぼ同等の入込み。

冬期利用者数



グラフ：冬季利用者数年次変化

出典：斜里町商工観光課

コメント：21年は週末の天候不順が続いたことが、利用者減につながっている可能性あり。

カムイワッカ地域

シャトルバス利用者数

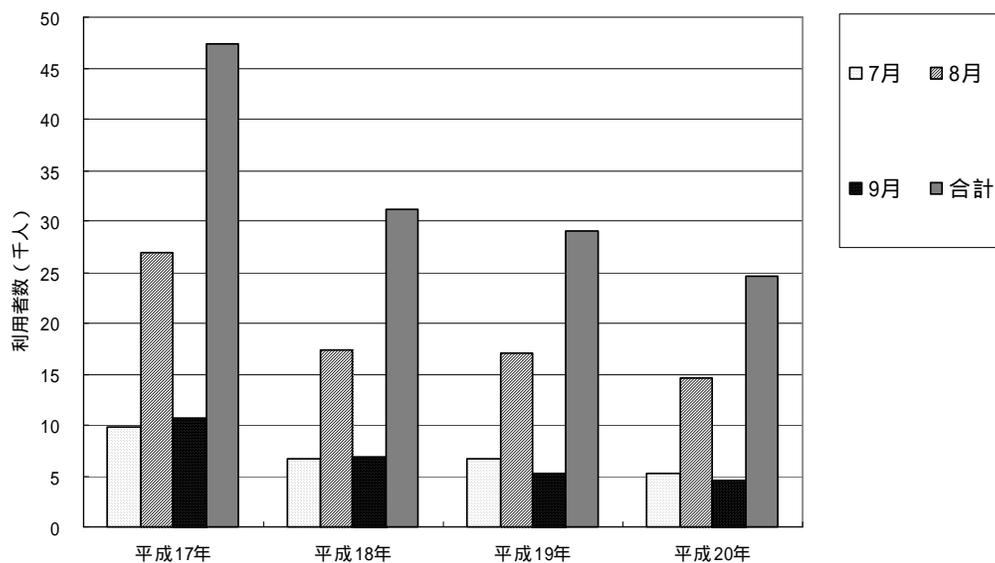


図 シャトルバス利用者数の年次変化（カムイワッカ以外の利用を含む）

出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：シャトルバス利用者前年比15%減。

ホロベツ地区

フレベの滝利用者数（フレベの滝カウンター調査）

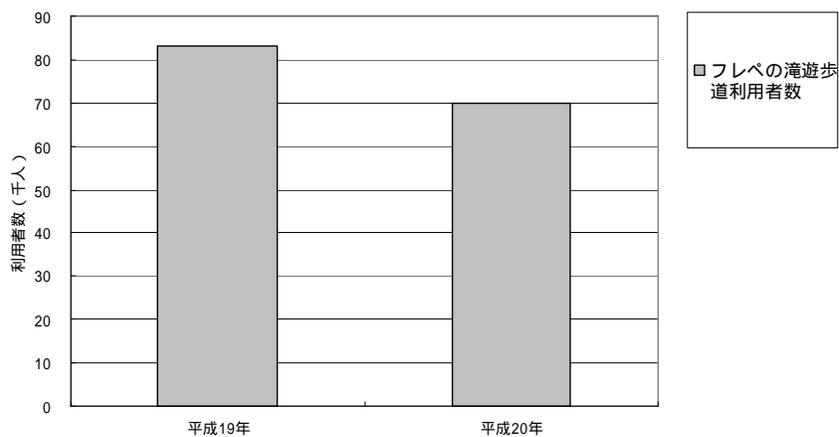


図 フレベの滝利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比16%減。

知床連山地域

連山登山道利用者数（岩尾別、湯ノ沢カウンター調査）

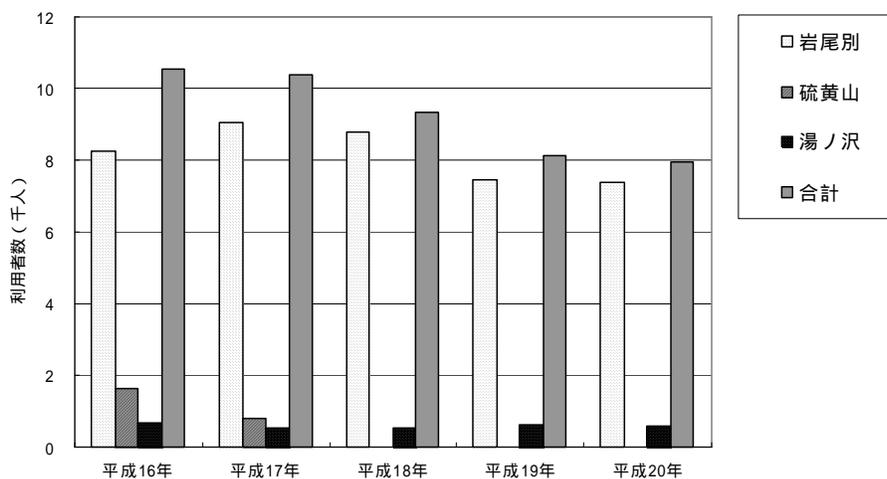


図 知床連山利用者数の年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年を若干下回る。

平成18年より硫黄山登山口は利用不可となっている。

ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

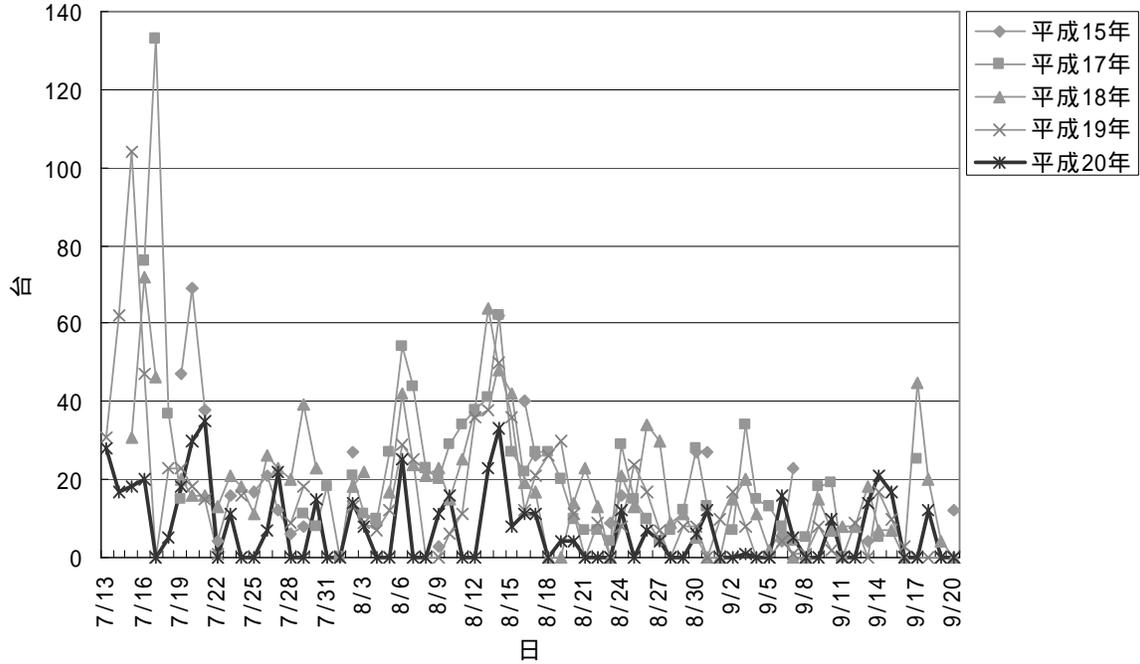


図 ハイシーズン（7～9月）の岩尾別登山口路上駐車台数

出典：環境省 路上駐車台数調査

コメント：7月中旬がピーク。最大でも40台/日と例年の半数以下。

羅臼湖地域

羅臼湖登山道利用者数（羅臼湖カウンター）

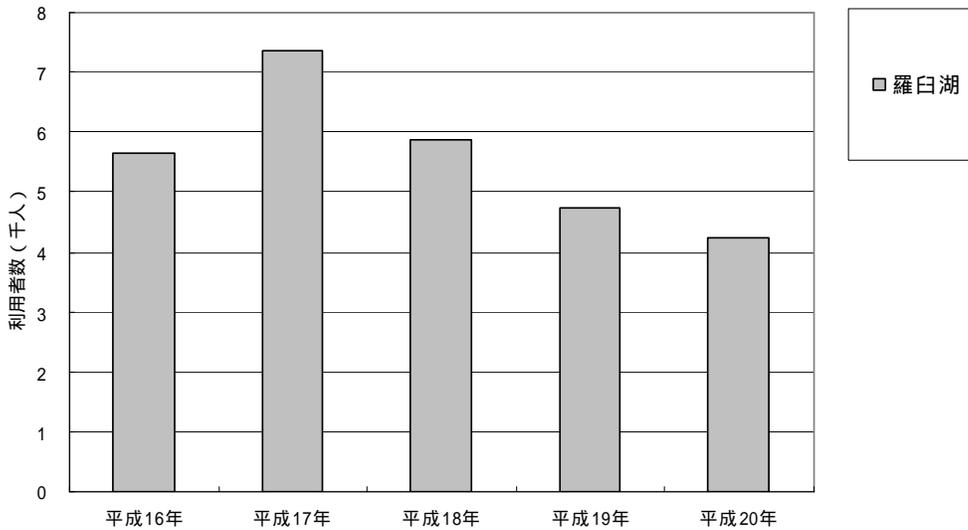


図 羅臼湖登山道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比10%減。

羅臼温泉地区

熊越の滝利用者数（熊越の滝カウンター調査）

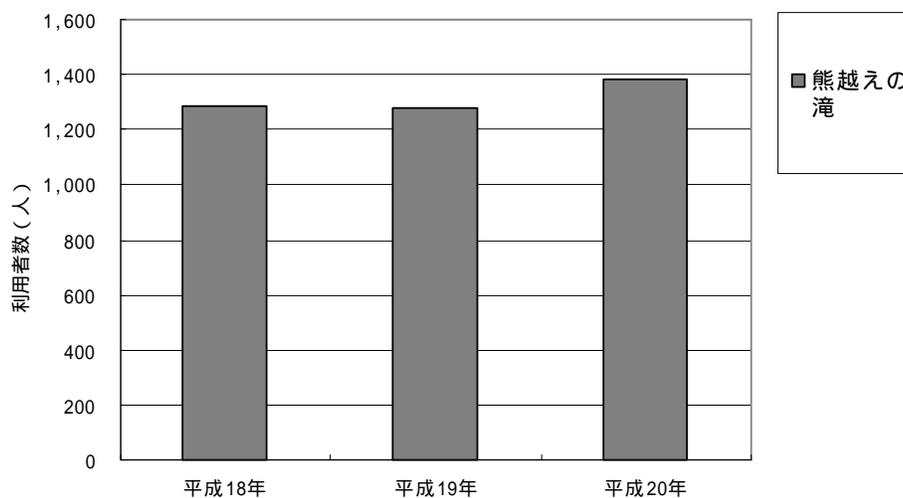


図 熊越の滝歩道利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：前年比8%増。

(2) 知床半島先端部地区の利用状況

知床岬、知床沼、知床岳地域

陸路による知床岬、知床沼方面利用者数(ウナキベツ・観音岩カウンター調査)

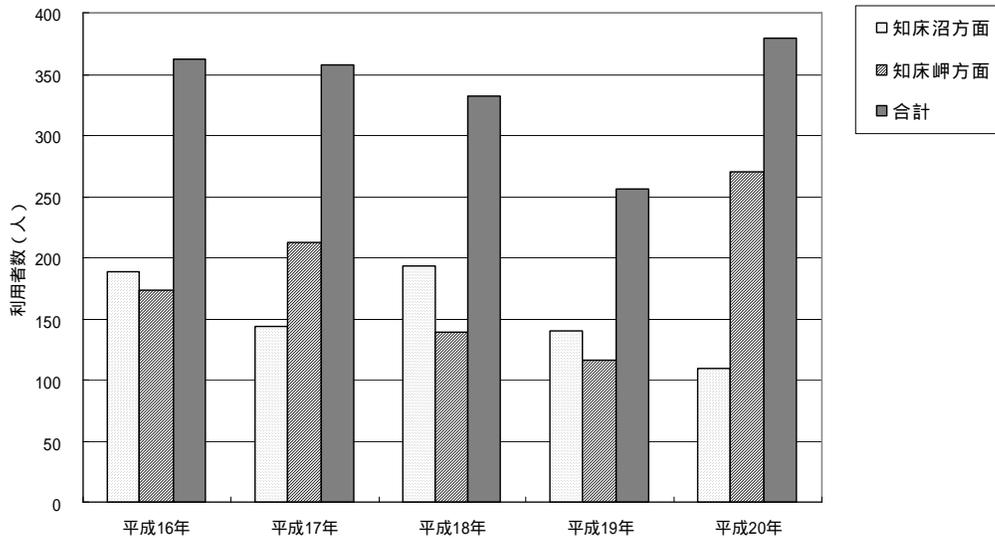


図 陸路による知床岬、知床沼方面利用者数年次変化

出典：環境省 カウンター調査

コメント：知床岬方面前年比123%増。知床沼方面22%減。

ハイシーズン(8月中旬)の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数(現地実態調査)

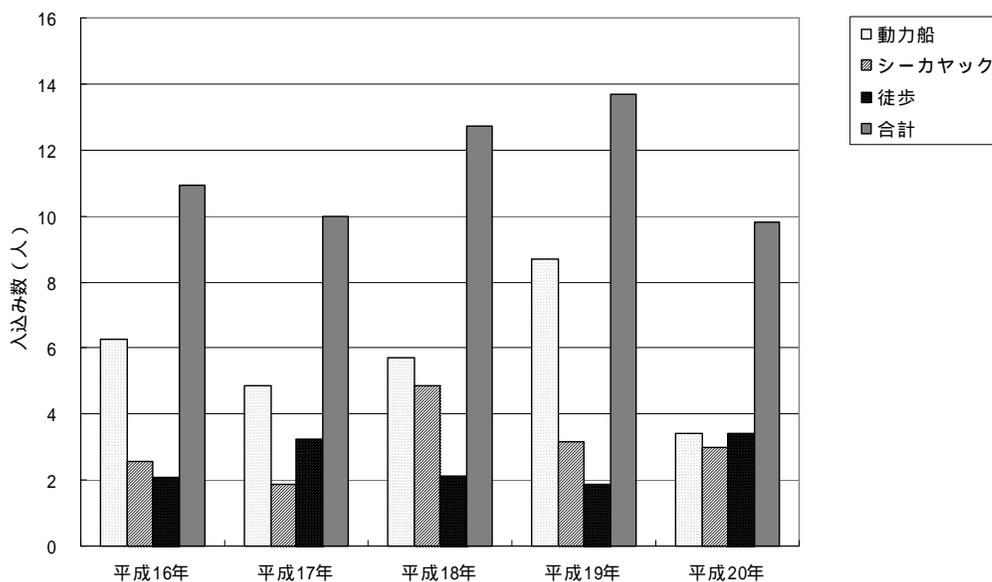


図 ハイシーズン(8月中旬)の知床岬入込み数と1日あたり平均入込み数年次変化

出典：環境省 知床岬現地利用実態調査

観光船

ウトロ及び羅臼地区観光船利用者数

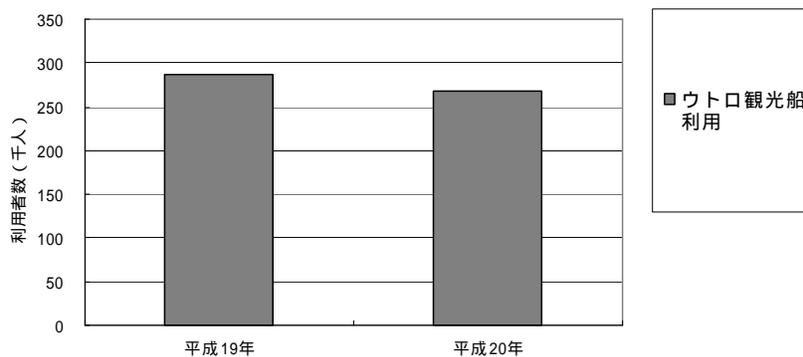


図 ウトロ地区観光船利用者数年次変化

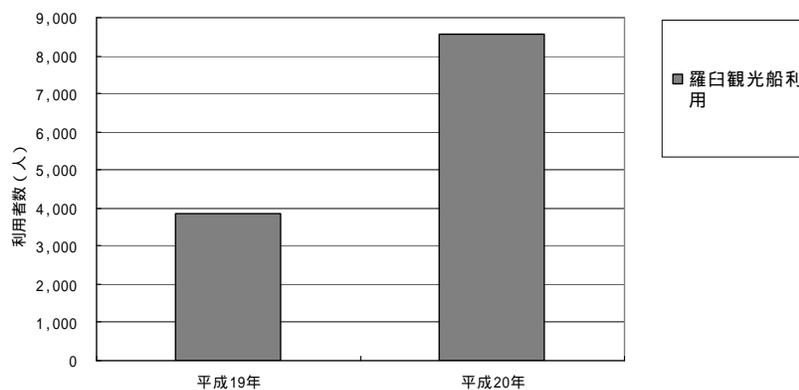


図 羅臼地区観光船利用者数年次変化

出典：環境省 アンケート調査（観光船事業者）

コメント：前年比ウトロ地区は7%減。羅臼地区は123%増。

シーカヤック

シーカヤック利用者数

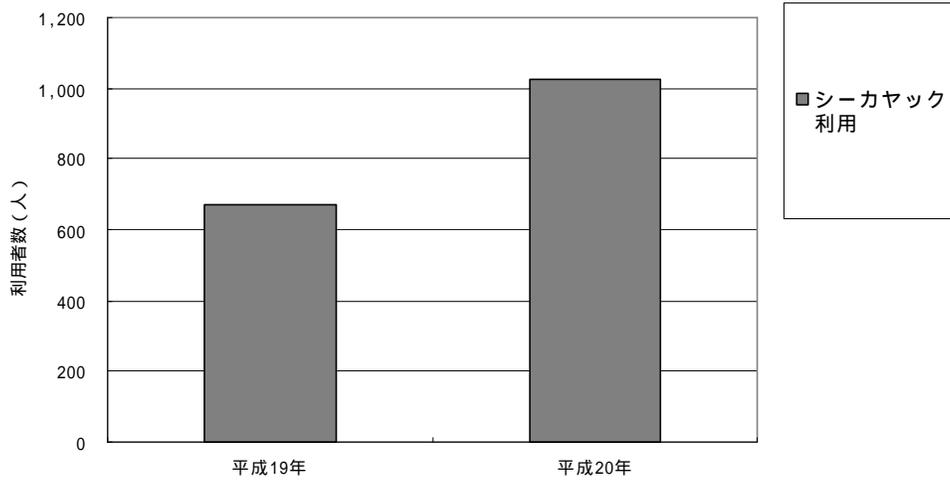


図 シーカヤック利用者数年次変化

出典：環境省 アンケート調査（シーカヤック事業者）

ウトロ側事業者を対象に実施したものである。

コメント：前年比5.3%増。

河口部

サケマス釣りの利用者数

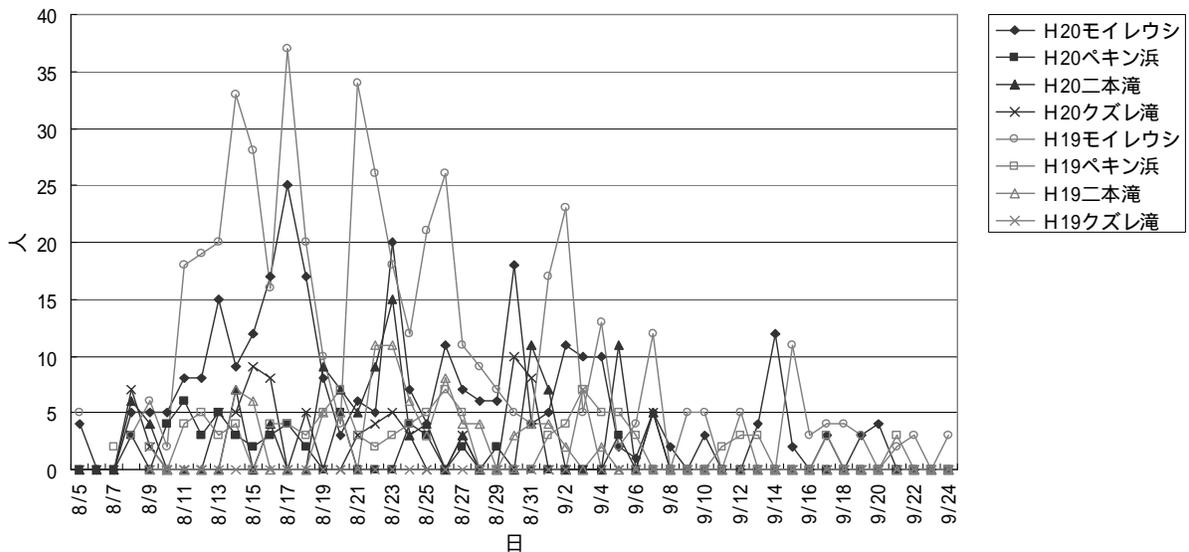


図 サケマス釣り利用者数

出典：環境省 アンケート調査（羅臼遊漁船組合）

コメント：8月中旬のモイレウシ利用が多いが（25人/日）、昨年度に比べて利用人数は減少。

(3) 施設利用状況

知床自然センター駐車台数（マイカー規制実施期間）

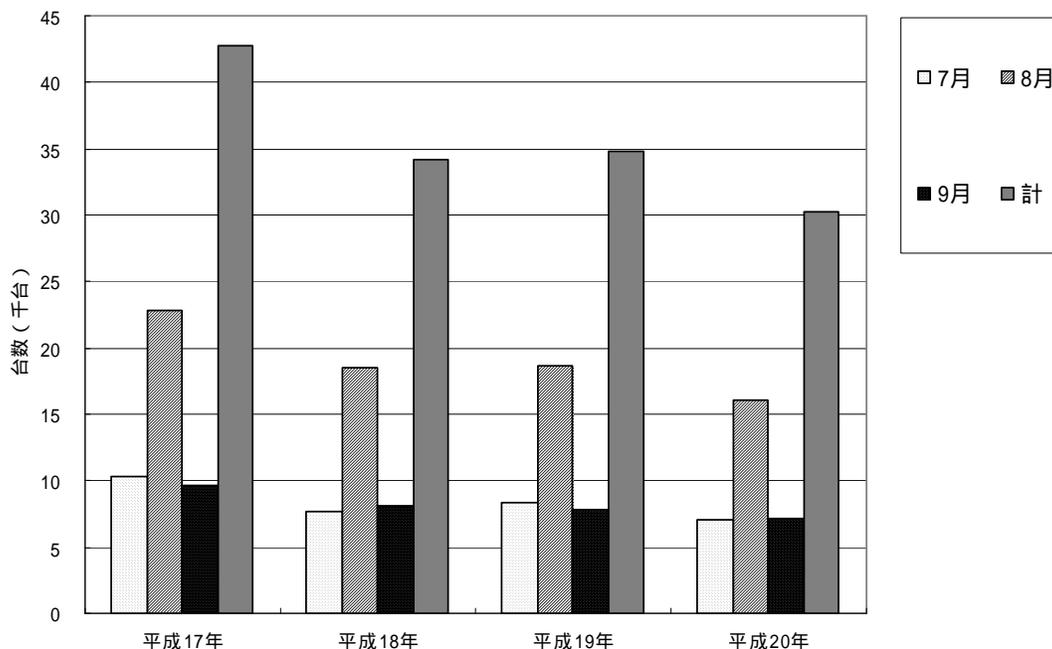


図 知床自然センター駐車台数年次変化

出典：カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

コメント：前年比13%減。

知床自然センターダイナビジョン利用者数（団体・個人）

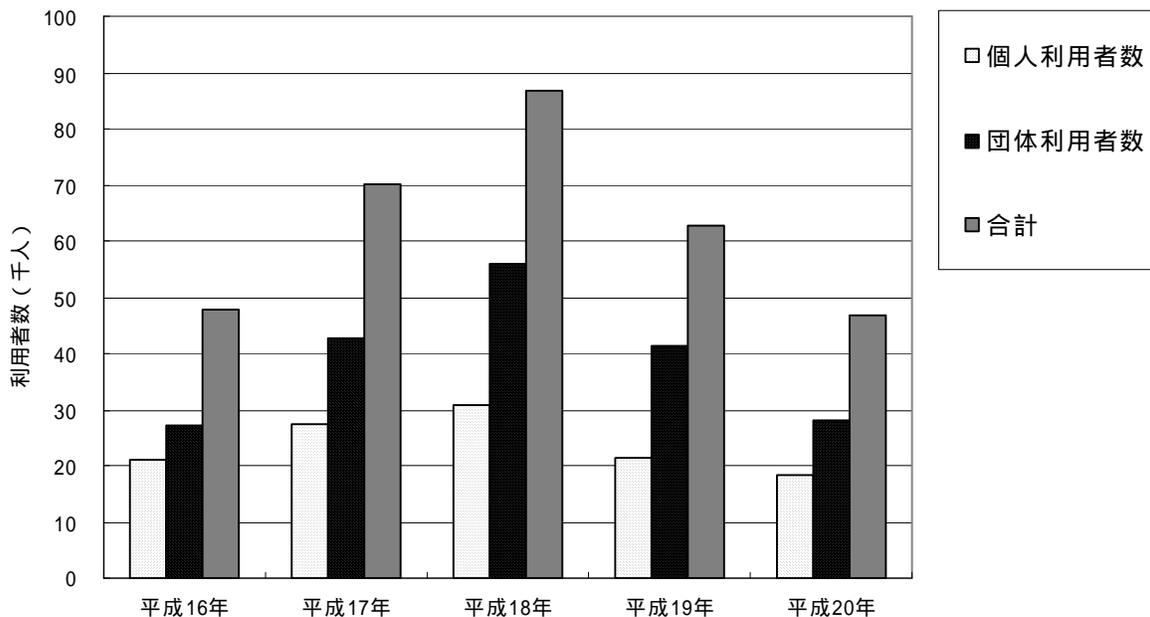


図 ダイナビジョン利用者数年次変化

出典：(財)知床財団

コメント：前年比26%減。世界遺産登録前と同等。団体利用の減少が著しい。

羅臼ビジターセンター利用者数

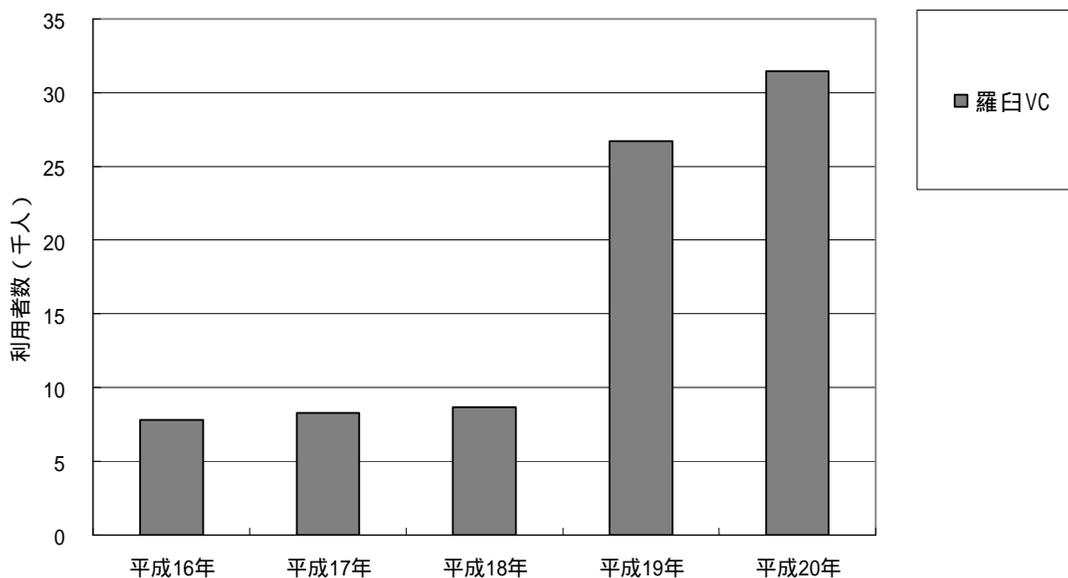


図 羅臼ビジターセンター利用者数年次変化

出典：羅臼ビジターセンター

コメント：前年比17%増。

道の駅利用者数（ウトロ、斜里、羅臼）

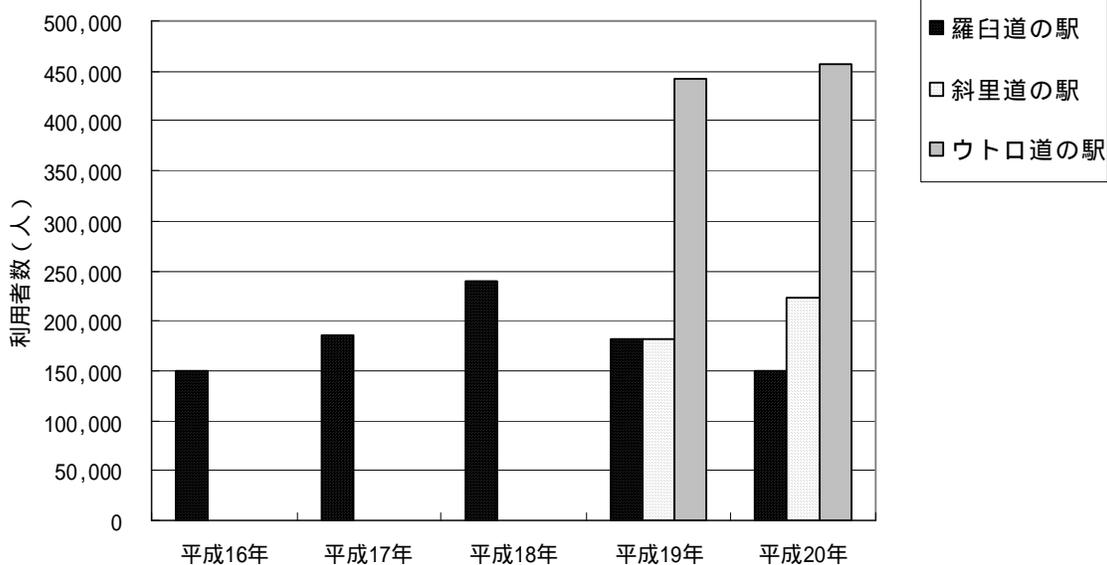


図 道の駅利用者数（ウトロ、斜里、羅臼）

出典：斜里町商工観光課、羅臼町水産商工観光課

コメント：斜里、ウトロは増加。羅臼は減少傾向。

知床森林センター・ボランティア活動施設利用者数

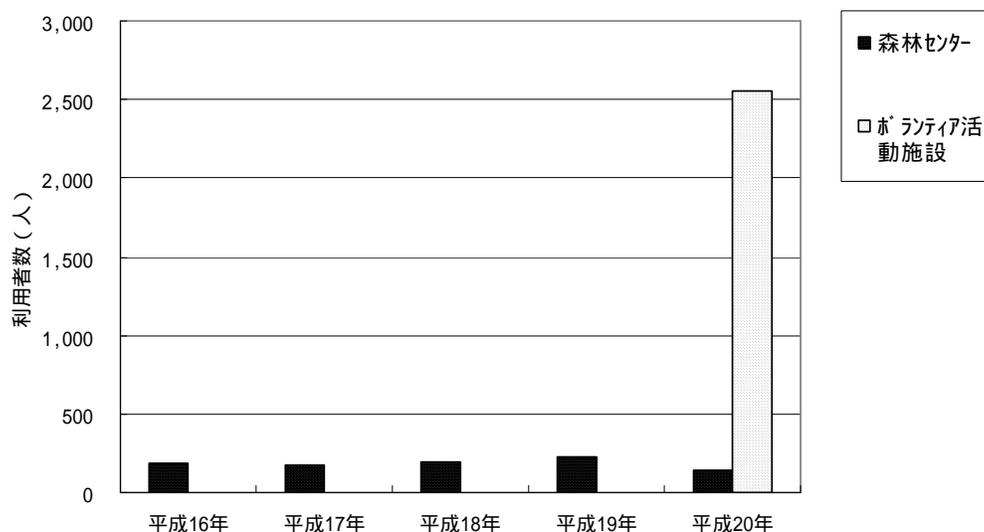


図 森林センター・ボランティア活動施設利用者数年次変化

出典：林野庁北海道森林管理局 知床森林センター

コメント：森林センターの利用者は、200人前後で推移。ボランティア活動施設が今年度5月に整備され、利用者2500人を数えた。

知床博物館利用者数

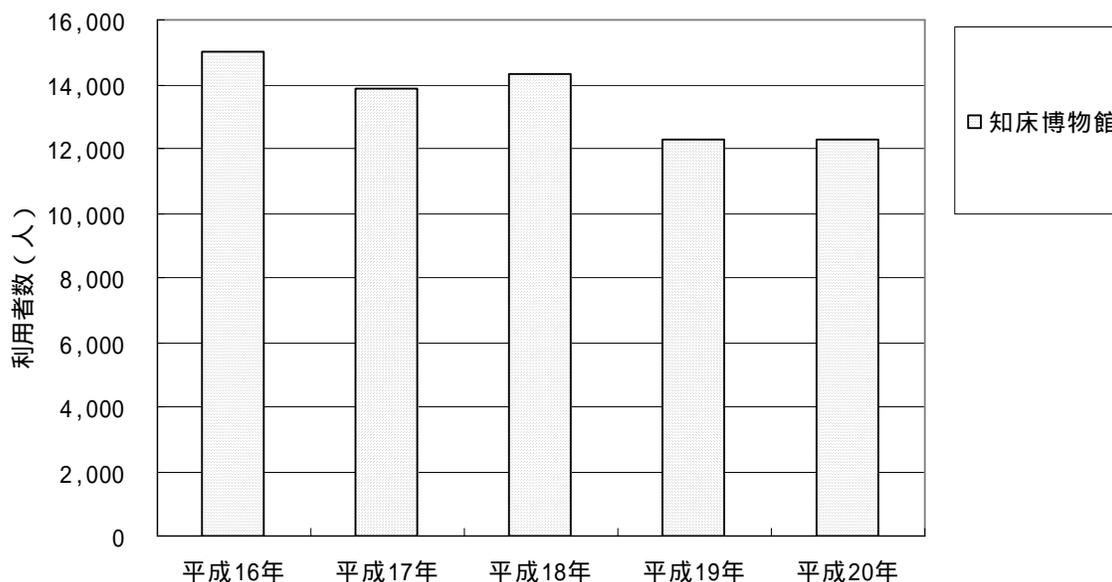


図 知床博物館利用者数年次変化

出典：斜里町立知床博物館

コメント：前年並みの利用者数。

2. 知床地域におけるハード事業の実施状況

A. 知床地域の既存事業一覧

道路（車道）

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
知床公園羅臼線 （87号線）	北海道	8km	雪崩予防柵等	35
知床国道 （334号線）	北海道開発局	30.3km	落石防護等	36
知床公園線 （93号線）	北海道 斜里町	19.3km 481m	落石防護網等	35
知床保安林管理車道	網走南部森林管理署	11.2km		
岩尾別温泉線	斜里町	3.1km		

道路（歩道）

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
知床五湖周回線道路	北海道	3km	木道補修、危険木除去等	33
羅臼湖線道路	北海道	3km	（協働作業による補修、 草刈り）	
羅臼岳登山線道路	根釧東部森林管理署	3.7km	草刈り	32

園地

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
知床五湖園地	北海道 斜里町 環境省	0.49ha 0.12ha	公衆トイレ補修等	30
知床峠園地	北海道	0.15ha		
ホ口ベツ園地	北海道	0.41ha		
羅臼温泉園地	北海道	0.29ha		

野営場

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
羅臼温泉野営場	北海道	1.1ha	公衆トイレ、炊事棟等補 修、浄化槽補修	33

駐車場

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
ホ口ベツ駐車場	北海道 斜里町	0.69ha 1.5ha		
羅臼温泉駐車場	北海道	0.13ha	浄化槽補修	33

河川工作物

河川工作物WGにおいて、改良が適当とされたもの

名称	工作物の管理者	全体規模	H20 年度	ページ
ルシャ川	北海道	2 基	H18 改良済み	
イワウベツ川	森林管理局 斜里町	5 基 1 基	H19 までに 3 基改良済み 1 基改良	
チエンベツ川	北海道	2 基	1 基改良	
サシルイ川	北海道	2 基	H19 改良済み	
羅臼川	北海道	1 基	改良に係る調査設計	

その他の河川工作物

名称	工作物の管理者	全体規模	備考
ルシャ川	北海道 民間	1 基 1 基	
ポンプタ川	森林管理局	7 基	
イワウベツ川	森林管理局 北海道開発局 斜里町	8 基 7 基 3 基	
ホロベツ川	北海道開発局	5 基	
アイドマリ川	森林管理局 民間	2 基 1 基	
オショロッコ川	森林管理局	1 基	
ショウジ川	北海道	1 基	
ケンネベツ川	北海道	8 基	
モセカルベツ川	森林管理局 北海道	6 基 6 基	
オッカバケ川	森林管理局 北海道	2 基 1 基	
知徒来川	森林管理局	10 基	
羅臼川	森林管理局 北海道開発局 北海道 羅臼町	11 基 1 基 2 基 5 基	

その他

名称	管理者	全体規模	H20 年度	ページ
世界遺産センター	環境省	990 m ²	新築工事等	29
ルサFH	環境省	257 m ²	新築工事等	29
羅臼VC	環境省	831 m ²	外構工事等	31
旧羅臼VC	環境省		外壁塗装等	31
羅臼漁港	北海道開発局		-3.5m岸壁等	

ウトロ漁港	北海道開発局		島防波堤等	
知床ボランティア活動施設	北海道森林管理局	320 m ² (延床面積)	森林ボランティア団体や教育機関等の活動の拠点として H20.5.9 にオープン	30

B . H20 年度 実施事業一覧

(1). 知床世界遺産センター

事業の背景・目的

- ・ 知床に住む動物の実物大の写真や、動物の痕跡の模型を展示し、知床の自然の素晴らしさと利用にあたって守るべきルール・マナーを伝えます。また、知床世界遺産の見どころや自然のリアルタイムの情報を発信するとともに、知床世界遺産の管理について最新の情報を提供します。

事業実施体制

- ・ 釧路自然環境事務所

位置

- ・ 斜里町ウトロ西

事業の概要

- ・ 新築工事（建物、外構、内部展示等）
- ・ 木造（大断面集成材）平屋建て
建築面積 990.07 m² 床面積 758.34 m²

備考（今後の予定など）

- ・ 平成 2 1 年度に開館予定。



(2). 知床世界遺産ルサフィールドハウス

事業の背景・目的

- ・ ルサは羅臼側における世界遺産の核心部への入口にあたります。フィールドハウスは先端部利用者等に対し、世界遺産の普及啓発、先端部地区利用のマナー、野生生物との適切な接し方等について情報を提供する施設として整備します。

事業実施体制

- ・ 釧路自然環境事務所

位置

- ・ 羅臼町北浜

事業の概要

- ・ 新築工事（建物、外構、内部展示等）
- ・ 木造（大断面集成材）2 階建て
建築面積 257.06 m² 床面積 263.92 m²

備考（今後の予定など）

- ・ 平成 2 1 年度に開館予定。



(3). 知床ボランティア活動施設

事業の背景・目的

- ・平成 19 年度に建築工事を実施した知床ボランティア活動施設については、知床の森林をフィールドとした個人、企業、団体等の多様な主体の参加による森林づくり活動・森林環境教育活動を推進するための拠点として平成 20 年度にオープンしました。

事業実施体制

- ・北海道森林管理局

位置

- ・斜里町ウトロ

事業の概要

- ・木造平屋建て延床面積 319.90m²
レクチャースペース、会議室、休養室、倉庫・作業室等

備考（今後の予定など）

- ・知床の森林に関する情報発信
- ・知床世界自然遺産利用マナーの普及・啓発
- ・知床森林センターが主催するイベントの実施



(4). 知床五湖園地

事業の背景・目的

- ・知床五湖において問題となっている様々な問題を踏まえて、知床五湖の利用適正化を図り、安定的な利用ができるよう環境省が平成 17 年度に整備した高架木道について、延長するものです。

事業実施体制

- ・釧路自然環境事務所（北海道施行委任）

位置

- ・斜里町岩尾別

事業の概要

- ・高架木道：L=279m 中間展望台：1基
待避所：4箇所 電気柵施設：1式

備考（今後の予定など）

- ・高架木道：L=300m 最終展望台：1基
待避所：2箇所 電気柵施設1式
- ・レクチャー施設：1棟



(5). 新・羅臼ビジターセンター

事業の背景・目的

- ・平成 18 年度に建築工事が完了した羅臼ビジターセンターについて、19 年度に引き続き外構工事を実施するとともに、羅臼町で座礁したシャチの骨格標本の設置および映像展示の国際化の対応をおこないました。

事業実施体制

- ・釧路自然環境事務所

位置

- ・羅臼町湯ノ沢

事業の概要

- ・外構工事（植栽工）
ハウチワカエデ、ヤマモミジ、イタヤカエデ、ハマナス
ハイマツなど
- ・シャチ骨格標本設置
- ・映像展示国際化



(6). 旧・羅臼ビジターセンター

事業の背景・目的

- ・旧羅臼ビジターセンターを調査研究・ボランティア活動・野生動物管理等の拠点として改修を実施しました。また、あわせて太陽光発電等を設置し CO2 削減対策を行いました。

事業実施体制

- ・釧路自然環境事務所

位置

- ・羅臼町湯ノ沢

事業の概要

- ・外壁塗装、内部改修、太陽光パネル設置



(7). 羅臼岳登山道の補修

事業の背景・目的

事業実施体制

- ・ 網走南部森林管理署
- ・ 根釧東部森林管理署

位置

- ・ 羅臼岳登山道（羅臼町側 湯の沢入口（キャンプ場入口を含む）～羅臼岳）
（斜里町側 木下小屋入口～羅臼岳）



事業の概要

- ・ 注意標識、制止施設等の点検巡視、補修
- ・ 登山道の草刈り（羅臼岳登山道）

(8). 防鹿柵設置工事

事業の背景・目的

- ・ 風害や塩害の影響を受けやすい海岸沿いで自生をしている岩尾別のカシワ林については、現在、エゾシカにより、樹皮の食害を受けている状況にあることから、この森林を保護するために行っています。

事業実施体制

- ・ 網走南部森林管理署

位置

- ・ 斜里町岩尾別（1379林班）

事業の概要

- ・ 自生したカシワ林の防鹿柵設置工事（1ha）

備考（今後の予定など）

- ・ 柵設置の効果調査を行う予定。さらなる保護対策が必要と思われる箇所については、防鹿柵の追加設置等を検討。

(9). 羅臼温泉集団施設地区

事業の背景・目的

- ・ 羅臼側の国立公園入口の利用拠点として相応しい地域環境づくりと、自然環境に応じた適正な利用基地としての整備充実を図るため、事業を実施しました。

事業実施体制

- ・ 北海道

位置

- ・ 羅臼町湯ノ沢

事業の概要

< 羅臼温泉野営場 >

- ・ 公衆トイレ補修（ドア補修等）
- ・ 炊事棟補修（給水管補修）
- ・ 進入防止柵補修
- ・ 安全施設追加（道路反射鏡）

- ・ 浄化槽補修（蓋補修）

< 羅臼温泉駐車場 >

- ・ 浄化槽補修（蓋補修）

備考（今後の予定など）

- ・ 浄化槽補修については継続予定。

(10). 知床五湖園地・知床五湖周回線

事業の背景・目的

- ・ 知床五湖園地内の道有施設の維持補修や、遊歩道(自然探勝路)において破損・腐食した木道部分の取替え工事等を行いました。

事業実施体制

- ・ 北海道

位置

- ・ 斜里町岩尾別

事業の概要

- ・ 公衆トイレ補修工事
- ・ 木道補修工事 L=21.6m
- ・ 遊歩道上の危険木除去

備考（今後の予定など）

- ・ 必要に応じて踏み込み防止対策や遊歩道の維持補修等を行っていく。

(11). 北海道自然歩道

事業の背景・目的

- ・羅臼集団施設地区利用者が、羅臼川河畔の探勝、散策をするための歩道の整備事業を行いました。

事業実施体制

- ・北海道

位置

- ・羅臼町湯ノ沢

事業の概要

- ・遊歩道上の危険木除去



(12). チエンベツ川小規模治山事業

事業の背景・目的

- ・サケ科魚類の遡上を可能とするため、既存治山ダム(1谷止工)の改良工事を実施したものです。

事業実施体制

- ・北海道

位置

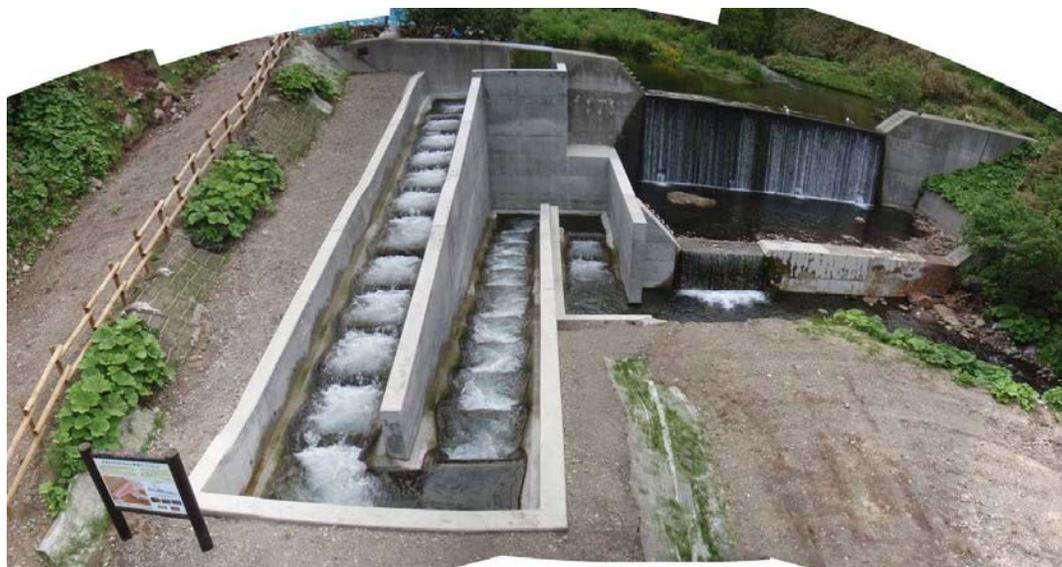
- ・チエンベツ川 河口から約160m上流の治山ダム(S62年設置)

事業の概要

- ・既設治山ダムの改良工(魚道工)

備考(今後の予定など)

- ・平成21年度も継続予定。(別の治山ダム1基の改良工)



(1 3). 羅臼川火山砂防事業

事業の背景・目的

- ・サケ科魚類の遡上を可能とするため、既存えん堤の改良を目的とした調査設計を実施したものです。

事業実施体制

- ・北海道

位置

- ・羅臼川 河口から約 3.4km 上流の砂防えん堤（ S 3 9 年設置 ）

事業の概要

- ・既設砂防えん堤の改良工（スリット化、魚道工）
平成 20 年度に事業着手し、調査設計を実施。

備考（今後の予定など）

- ・平成 21 年度より工事着手予定。

(14). 知床公園線災害防除事業

事業の背景・目的

- ・ 知床公園線沿線において落石等による災害を未然防止し、安全な通行ができるよう、平成19年度に引き続き、落石防護網と落石防護柵を設置したものです。

事業実施体制

- ・ 北海道

位置

- ・ 斜里町岩尾別（カムイワッカ）

事業の概要

- ・ 落石予防工・防護工
- ・ 落石防護網 2,800㎡
- ・ 落石防護柵 230m

備考（今後の予定など）

- ・ 平成23年度まで継続。



(15). 知床公園羅臼線防雪事業

事業の背景・目的

- ・ 知床公園羅臼線沿線において雪による災害を未然防止し、安全な通行ができるよう、平成19年度に引き続き、雪崩予防柵を設置したものです。

事業実施体制

- ・ 北海道

位置

- ・ 羅臼町相泊

事業の概要

- ・ 崩予防工
- ・ 雪崩予防柵 424基



(16). 一般国道334号斜里町岩尾別法面对策外一連工事

事業の背景・目的

一般国道334号は、地域生活をはじめ、地域産業（水産業、観光等）を支える役割を担っていますが、落石対策必要箇所（防災点検要対策箇所）等があり、現在、地域生活や産業基盤となる観光・水産物など物流ルートの安全性、確実性の向上を目的として防災対策事業を進めています。

事業実施体制

- ・北海道開発局

位置

- ・斜里町岩尾別

事業の概要

- ・転石処理 11箇所
- ・法面落石防護金網張り工（A = 1880m²）

備考（今後の予定など）

- ・法面对策工【H21 継続予定】



(17). 直轄特定漁港漁場整備事業(羅臼地区)

事業の背景・目的

羅臼漁港は昭和26年6月29日に第4種漁港に指定されて以来、サケ定置網漁業を中心とした地域水産業の拠点として、また根室海峡周辺漁場で操業している漁船の避難港として重要な役割を担っています。

現在、慢性的な係留施設等の不足解消とともに、近年の食の安全に対する消費者ニーズの高まりを踏まえ、衛生管理の高度化に対応した屋根付岸壁等の施設整備を行い、安全・安心な水産物の安定供給を確保するための漁港づくりなど漁業情勢等に応じた整備が続けられています。

事業実施体制

- ・北海道開発局

位置

- ・羅臼町羅臼漁港

事業の概要

- ・-3.5m 岸壁 1式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）
- ・-3.0m 岸壁（補修） 1式（エプロン舗装）
- ・-4.0m 岸壁（補修） 1式（エプロン舗装）
- ・道路 L=260.7m
- ・用地 1式（人工地盤内の照明設備、防塵処理）

備考（今後の予定など）

- ・-3.5m 岸壁 1式（低温清浄海水導入施設の送水管敷設）【H21 継続予定】
- ・-4.0m 岸壁（改良） 1式【H21 着手予定】



(18). 直轄特定漁港漁場整備事業(ウトロ地区)

事業の背景・目的

ウトロ漁港は、昭和26年6月29日に第4種漁港に指定されて以来、全国有数のサケの生産流通拠点として、また知床半島周辺漁場で操業している漁船の避難港として重要な役割を担っています。

本漁港は、現在、慢性的な係留施設等の不足解消とともに、近年の食の安全に対する消費者ニーズの高まりを踏まえ、衛生管理の高度化に対応した人工地盤等の施設整備を行い、安全・安心な水産物の安定供給を確保するための漁港づくりなど漁業情勢等に応じた整備が続けられています。

事業実施体制

- ・北海道開発局

位置

- ・斜里町ウトロ漁港

事業の概要

- ・島防波堤 L=30m
- ・道路 1式(人工地盤スロープ部)
- ・用地(人工地盤) A=3,000m²



備考(今後の予定など)

- ・島防波堤【H21 継続予定】
- ・道路【H21 継続予定】
- ・用地(人工地盤)【H21 継続予定】

(19). しれとこ 100 平方メートル運動地防鹿柵設置

事業の背景・目的

- ・ しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生事業の一環として植栽した苗木をエゾシカから守るために過去に設置した防鹿柵の嵩上げ工事を実施しました（積雪期にシカの侵入が認められたため）。

事業実施体制

- ・ 斜里町

位置

- ・ 斜里町岩尾別

事業の概要

- ・ カラマツ製柱（4m）+ 金属フェンス（1.2m）
- ・ 4 m 柱 ×（160+121+170+110）m

備考（今後の予定など）

- ・ 平成 20 年度、21 年度の 2 ヶ年で実施

(20). しれとこ 100 平方メートル運動地旧開拓家屋修繕工事

事業の背景・目的

・ しれとこ 100 平方メートル運動地の「公開」に向けて、現地で開拓の歴史や開拓者の生活を説明するための教材として活用することを目的としています。

事業実施体制

- ・ 斜里町

位置

- ・ 斜里町岩尾別

事業の概要

- ・ 家屋の現状を維持するため、冬季の積雪や風雨に耐える程度の必要最小限の改修工事。

備考（今後の予定など）



(2 1). イワウベツ川導水管ダム改修事業

事業の背景・目的

岩尾別孵化場の導水施設全体の改修事業と合わせて、前年の増水で破損が確認された導水管ダムの堤体を下げるとともに、堤体内の導水管を上流側の河床に埋設してサケマスの上り障害となっていた落差を解消した。

事業実施体制

- ・ 斜里町、北見管内さけます増殖事業協会

位置

- ・ 斜里町赤イ川

事業の概要

- ・ 導水管ダム（幅 15m×高さ 1.83m×厚み 0.5m のコンクリート製）の堤体を 1m 下げ、堤体内にあった導水管を上流側の河床に埋設して、落差を解消した。

備考（今後の予定など）



改修前



改修後

(2 2). イワウベツ川河口部土砂除去作業

事業の背景・目的

時化により、河口部に砂利が堆積し、サケマス親魚の上りが困難となり、孵化事業の支障となっていたため、砂利の除去を実施しました。

事業実施体制

- ・ 斜里町

位置

- ・ 斜里町岩尾別川

事業の概要

- ・ 重機によって一部の砂利（20 m³：2×10m）の除去を実施した。

備考（今後の予定など）

3. 知床地域の保安全管理（ソフト事業）の状況

(1) 長期モニタリング

モニタリング項目	調査内容	H20年度	ページ
海洋環境の変動把握	航空機による海水分布状況調査		
	衛星リモートセンシングによる水温・流水分布・クロロフィルaの観測		
	海洋観測ブイによる水温・クロロフィルa・流向・流速の定点観測		
	アيسアルジーの生物学的調査		
海洋汚染調査	海水中の石油、カドミウム、水銀などの分析		
主要魚介類の資源動態把握	「北海道水産現勢」からの漁獲量の変動の把握		
根室海峡におけるスケトウダラ個体群の動態把握	スケトウダラの資源状態の把握と評価		
	スケトウダラ産卵量調査		
トド個体群の動態把握	トドの日本への来遊頭数の調査、人為的死亡個体の性別、特性		
アザラシ類個体群の動態把握	アザラシの生息状況の調査		
	野生鳥獣被害調査		
サケ科魚類生息状況の把握	サケ類の遡上産卵河川数と河川内におけるサケ類の遡上数、産卵場所および産卵床数モニタリング		
	サケ科魚類の遺伝的多様性の現状と変化に関する調査		
海鳥類生息状況の把握	ケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの生息数、営巣地分布と営巣数調査		
	調査可能範囲のコロニーでケイマフリ・ウミネコ・オオセグロカモメ・ウミウの営巣調査。あわせて営巣数変動要因調査(営巣環境、餌資源、オオセグロカモメやヒグマによる捕食との関連、観光船等人為的影響)		
オジロワシ繁殖状況の把握	知床半島全体のオジロワシ営巣地における繁殖の成否、及び、巣立ち幼鳥数のモニタリング		
海ワシ類の越冬状況の把握(主にオジロワシ・オオワシ渡来越冬群)	越冬個体数の調査		
	越冬個体数の季節変動、及び人為的餌資源と自然餌資源の利用状況調査		
シマフクロウの生息状況の把握	生息数、繁殖の成否、繁殖率と巣立ち幼鳥数、餌資源などに関する調査。標識や発信機装着による移動分散調査。死亡・傷病個体調査と原因調査		

特定重要地域を指標とした生態系の現状に関する総合的把握	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(林野庁1ha囲い区)		
	エゾシカの影響からの植生の回復状況調査(環境省知床岬囲い区)		
	密度操作実験対象地域のエゾシカ採食圧調査		
	エゾシカの採食圧の把握に関する広域植生調査(知床半島全域に設定した混合ベルト調査区、及び、海岸植生調査地点など定点、登山道沿いにおける植生現況とエゾシカの採食圧に関する調査。植物のインベントリ調査を兼ねる。)		
	シレットコスミレの定期的な生育・分布状況調査		
	海域の生物相、及び、生息状況(浅海域定期調査)		
	広域植生図の作成		
	淡水魚類の生息状況、特に知床の淡水魚類相を特徴付けるオシロコマの生息状況(外来種侵入状況調査含む)		
	陸上無脊椎動物(主に昆虫)の生息状況(外来種侵入状況調査含む)		
	中小大型哺乳類の生息状況調査(外来種侵入状況調査含む)		
	陸生鳥類生息状況調査		
エゾシカの生息状況の把握	エゾシカ越冬群の広域航空カウント		
	主要越冬地における地上カウント調査(ライトセンサスなど)		
	間引き個体、自然死個体などの体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する調査		
観光利用・住民生活とヒグマとの軋轢の現状把握	目撃・出没状況、被害発生状況に関する調査		

長期的モニタリング項目に含まれているものはモニタリング個表を作成し、掲載。

(2) ソフト事業の実施状況

番号	主体	名称	概要
1	環境省	知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測の実施	幌別地区から知床五湖・カムイワッカ地区までの自動車利用の適正化のあり方を検討するため、利用実態の分析や交通シミュレーション等を実施
2	環境省	知床半島中央部地区利用の心得の策定	利用適正化検討会議での議論を踏まえ、2008年10月に知床半島中央部地区利用の心得を策定した。今後、関係機関配布用の冊子、普及啓発用のポスター等の作成を行い、普及啓発を図るとともに、世界遺産センターの館内展示でも紹介する。
3	斜里町 環境省	知床国立公園クリーン事業（知床岬）	知床岬など遺産地域内において海岸清掃実施（20年度は6月30日、知床岬地区で清掃活動を実施）。
4	羅臼町	知床岬クリーンボランティア	羅臼町と町内のNPO法人との共催により、知床岬での海岸清掃を実施。天候が悪く1回のみ開催。14名の参加で103kgを回収。
5	斜里町 羅臼町 北海道 環境省	羅臼岳携帯トイレ利用促進事業	関係機関の連携・協力のもと、登山者の携帯トイレ利用促進の取組を進める。 登山口等に携帯トイレ回収ボックスを設置し（7～10月）、回収・処理を行った（斜里町・羅臼町）。 携帯トイレの普及啓発のため、ポスター及びリーフレットを作成（北海道）するとともに、アンケート調査・現地調査等により利用者意識や現況の把握を行った。
6	北海道	隣接地区（真鯉地区含む）における狩猟による捕獲	エゾシカ可猟区における輪採制システム（輪採制）の試験的導入を行った。
7	北海道	エコツアーガイドスキルアップ研修の実施	エコツアーの中核的な担い手となるガイドの質の向上を目指し、網走、釧路、根室管内で研修を実施した。
8	斜里町	しれとこ100平方メートル運動地における森林再生事業	運動によって取得した開拓跡地を開拓以前の森林環境に復元する。また、運動地の適正な公開のあり方を検討するための公開試行プログラムも実施。
9	環境省	知床国立公園における年次報告書作成	遺産地域の現況や取組を整理し、関係団体や専門家等との情報共有を行うため、遺産地域の自然環境や社会環境、取組内容等を取りまとめた年次報告書の素案の作成を実施した。
10	環境省	エゾシカ季節移動調査	エゾシカの季節移動調査のための捕獲・標識付けをルサ・相泊地区で実施した。
11	知床財団	知床キムンカムイプロジェクト（H18-20）ルシャ地区生息状況調査ほか	知床半島と隣接地域に生息するヒグマの個体行動圏や移動分散等を現存の標識個体（GPSテレメトリー）と過去の捕獲個体を含む体組織標本の分析（DNA分析）で解明する。その他、食性の変化、繁殖間隔などの把握も実施した。 5～10月に岩尾別地区を中心に計6頭のヒグマを捕獲、うち5頭にGPS発信器を装着した。

1 2	環境省	アメリカオニアザミの駆除及び効果モニタリング（継続）	知床岬周辺でのアメリカオニアザミの分布状況調査や駆除作業、駆除箇所の経過観察、駆除作業の検証及びモニタリング体制の検討等を実施した。 7～9月に計5回の駆除作業及び駆除作業前後の分布状況についてのモニターを実施した。
1 3	環境省	アライグマの侵入状況、捕獲調査	アライグマを対象に、侵入状況調査、被害状況調査を行うとともに、高密度化が予想される地域において箱ワナによる駆除を実施した 侵入状況調査によるアライグマの生息確認は無いが、自家用ハウス栽培の中でアライグマの足跡及びスイカ被害を確認した。 捕獲調査によるアライグマ捕獲は無し。 その他情報として、斜里町内でアライグマの轢死体を発見した。
1 4	環境省	セイヨウオオマルハナバチの侵入状況調査 道路沿いにおけるジギタリス等外来植物の除去	セイヨウオオマルハナバチ、ジギタリス等の遺産地域内及びその周辺地域での分布状況把握及び簡易な駆除、並びに防除を実施した。 また、普及啓発も実施した。 斜里町内でオオハンゴンソウ1株を初確認し、駆除を実施した。
1 5	環境省	シマフクロウの巣箱改良（捕食者対策）	テンによる捕食を防ぐため、侵入防止のためのアタッチメントを試作、既存巣箱に設置した。
1 6	林野庁	知床半島緑の回廊における猛禽類調査	クマタカ等の生息エリアの特定と営巣状況に関するデータの把握を行った。 8種の猛禽類が確認され、採餌環境およびオジロワシ、クマタカの繁殖利用域が推定された。
1 7	環境省	知床岬における鳥類相モニタリング等調査	生態系の回復具合を判定する指標の一つとなりうる鳥類相を対象として、生態系の変化と鳥類相との相関に係る調査を実施した。また、知床岬における鳥類相の効率的かつ効果的で定量的な調査手法の検討を行った。 7月14日に現地調査を実施し、8目20科37種の鳥類を確認した。 1979年の調査結果（中川，1981）と比較すると、環境変化のために確認できなくなったと考えられる種が一部認められた。
1 8	環境省	植物種インベントリ作成	北海道大学総合博物館所蔵の知床半島における植物標本の整理を行い、知床半島における植物種のインベントリの作成を実施した。
1 9	林野庁	知床岬先端部の詳細な植生図（1/5000）の作成	知床沼以北の森林及び草地の植生図を作成した。
2 0	林野庁 北海道	河川工作物改良によるサケ科魚類遡上効果確認調査	改良工事を実施したイワウベツ川（支流赤イ川でH18に1基、支流ピリカベツ川でH19に2基）、ルシャ川（H18・2基）、サシルイ川（H19・2基）について、サケ科魚類の遡上効果を確認するためのモニタリング調査を実施した。 赤イ川、ルシャ川及びサシルイ川では、改良により遡上が容易になっている状況が確認された。

2 1	野生鮭 研究所	カラフトマス・シロザケを捕食するヒグマの生態	<p>年齢および社会的な関係で変化するヒグマの個体ごとのカラフトマス・シロザケを捕食する生態の調査を実施した。</p> <p>カラフトマス・シロザケの遡上・産卵期である 2008 年 8 月～11 月に知床半島ルシャ地区(観察区域約 80 km²)で 51 匹のヒグマ(1 歳以上のメス 28 匹、オス 7 匹、性別不明 7 匹、0 歳 9 匹)を記録し、血縁関係および社会的な関係で変化するヒグマが魚を捕食する行動を個体別に記録した。若齢個体ほど生きた魚を狩る時間が短く、魚の捕獲地点と魚を摂食する食卓までの運搬距離が長く、年を経るに従い、狩りの時間が長くなり、運搬距離は短くなった。観察区域内での出場頻度が高い母クマから独立した若齢個体の出場頻度は高い傾向があった。</p>
2 2	野生鮭 研究所	ヒグマなどによるカラフトマス、シロザケの被捕食量に関する研究	<p>河川に遡上するカラフトマス・シロザケの量に対してヒグマなどが捕獲する量を算定する調査を実施した。</p> <p>家族形態、社会的地位によりヒグマの捕食行動は多様に变化した。越冬直前の 0 歳の子 2 匹を連れた母グマの事例では、日中 10 時間の間に 3 回の狩と食事を行い、116 分間で合計 20 匹(メス 15 匹、オス 5 匹：推定重量約 50kg)のシロザケを捕獲し、うち約 20kg を家族 3 匹で摂食したと推定できる記録が得られた。</p>
2 3	環境省	サケ属魚類の河川遡上動態と陸域生態系への物質輸送に関する調査	<p>主にルシャ川を対象としてサケ属魚類(カラフトマス)の産卵遡上動態を明らかにするとともに、サケ属魚類による海起源物質の陸域生態系への運搬過程を明らかにした。カラフトマスの遡上数と産卵床数の評価技術の確立、河川内に生息するオシロコマや水生昆虫、ヒグマやヤナギ等の陸上動物の安定同位対比分析を実施した。</p> <p>カラフトマスの遡上行動は夜明け前後に活発化し、河川滞在日数は 4.9 日と推定された。ルシャ川の遡上数は、2 評価モデルから約 1 万個体と推定された。ヒグマ目視観察から、河畔 5m 以内でカラフトマスを捕食するケースが多く、1 時間あたりの捕食数は約 10 尾であることが明らかになった。炭素・窒素安定同位体比分析の結果、オシロコマおよび水生無脊椎動物において海洋由来物質(MDN)が輸送されていることが示された。ヒグマにおいては、草本や海洋由来の生物に依存している個体など食性に個体差が観察され、河畔から採取した植物の分析結果からベクターとして機能していることが示唆された。このことは、カラフトマスによる MDN 輸送が河畔林生態系全体をカバーしている訳ではないものの、陸域生態系へ行われていることを示唆している。</p>
2 4	知床財 団	ニジマスやブラウントラウトなどの外来種の侵入状況を把握する調査	<p>遺産地域内とその周辺河川において、潜水目視観察において、外来魚の有無を 10 月までに実施した。</p> <p>斜里町側の遺産地域内 3 河川と地域外 3 河川の計 6 河川で実施し、半島基部のシマトッカリ川のみにて多数のニジマスを確認した。</p>
2 5	環境省 + 科研	水中ロボット(ROV)を用いた生	北海道大学大学院水産科学研究院の ROV を用いて人間による直接的な観測が困難である水深帯の海底環境や分布生物を水中ロボット

	費	物群集のモニタリング	により観察し映像として記録した。半島周辺海域に設定した6点程度で水深帯別の観察・記録を行い、 2009年1月8日に羅臼港沖の5地点で実施した。
26	環境省	コンブ類分布状況調査	基礎生産を担うコンブ類の分布状況を音響機器を使用して調査するとともに、簡便なコンブ類の現存量把握の手法の確立を目的とする。7月のコンブ漁前と8月の漁後に調査を実施し、コンブ群落の総面積はそれぞれ7.09 km ² 、7.68 km ² であった。漁後では高さが52 cm以下の群落が増加する一方、52 cm以上の群落が減少していた。高さが52 cm以下の群落は漁期一か月で成長したコンブ群落と考えられた。
27	環境省 + 科研費	主要魚種の食物関係調査	知床海洋生態系の主要構成生物である魚類の胃内容分析を実施し、種間関係の重要な要素である食物関係を明らかにすることを目的とした。 2007年を含めると知床半島の両側水域から66種3,361個体を採集し、胃内容物分析が終わっているスケトウダラ、マダラおよびホッケについて調べた結果、3魚種ともに季節、年、水域、体サイズによって食性が異なることが確認された。
28	環境省 + 科研費	バイオリギングによるカラフトマス、シロザケの移動生態調査	海域管理計画の指標種の生態解明のため、指標種であるカラフトマス及びシロザケの沿岸来遊時における移動特性をデータロガー、標識放流などの手法によって明らかにすることを目的とした。 2種のサケ類にデータロガーを装着して放流した結果、カラフトマスでは5尾中3尾が、シロザケでは31尾中13尾が再捕された。カラフトマスの平均の遊泳水深と水温は、 $11.7 \pm 3.6\text{m}$ 、 15.1 ± 0.6 であったが、シロザケは、9月に放流した群で $55.3 \pm 39.0\text{m}$ 、 14.4 ± 2.9 、10月が $6.9 \pm 5.8\text{m}$ 、 15.5 ± 0.9 であった。
29	環境省	羅臼沖の深海域における栄養塩類および動物プランクトン調査	動物プランクトンの出現種の特徴及び季節変化を把握し、モニタリング手法を確立した。また、羅臼町が月1回採集している深層水の栄養塩類濃度データをもとに、季節・年変化の特徴を調べ、表層域におけるイベントとの関連を把握することにより、海洋環境の簡便なモニタリング手法を検討した。 2007年6月～2008年12月までの1立方メートル当たりの動物プランクトン沈殿量は23～2900 μl であり、2007年7～8月および2008年2～3月に多かった。全動物プランクトンのうちカイアシ類が出現個体数の96%を、バイオマスの80%を占めて最優占していた。栄養塩類については解析中。

(3) 巡視等の実施状況

区分	環境省	林野庁	北海道
巡視区域	知床世界遺産地域	知床世界遺産地域及び隣接地域	知床世界遺産地域及び隣接地域(斜里・羅臼町内)
巡視体制	環境省職員 4 人 アクティブレンジャー 4 人 サブレンジャー 人 自然公園指導員 23 人 国指定鳥獣保護区管理員 2 人	林野庁職員 20 人 グリーンサポートスタッフ 7 人	自然保護巡視員 6 人 鳥獣保護員 4 人
巡視実績	環境省職員 延べ 119 人日 アクティブレンジャー 延べ 483 人日 サブレンジャー 延べ 人日 自然公園指導員 人日 国指定鳥獣保護区管理員 延べ 人日	林野庁職員 延べ 388 人日 グリーンサポートスタッフ 延べ 405 人日	自然保護巡視員 延べ 163 人日 鳥獣保護員 延べ 115 人日
巡視内容	適正な利用や管理についての指導や施設の点検、清掃等	森林現況の把握、標識等の点検・修理、美化啓発、山火事予防啓発、危険木の処理等の国有林の管理及び入林者の指導	適正な利用や管理についての指導

(4) 普及啓発

イベント

番号	主体	名称
1	環境省	地元住民向け自然講座「知床らうす自然講座」
開催日	平成 20 年 9 月 25 日～21 年 1 月 31 日(計 7 回)	
参加人数	延べ 119 名	
内容	平成 19 年度から、羅臼ビジターセンターを拠点として地域住民の意識の高揚を促進。20 年度は羅臼ビジターセンターで講座を開催。 (各回テーマ) 第 1 回：ヒグマ ～羅臼と斜里の比較でみえてくるもの～ 第 2 回：知床のスマレ ～可憐でたくましい妖精たち～ 第 3 回：羅臼の海の哺乳類 ～海の生態系、その頂点に立つ生き物たち～ 第 4 回：エゾモモンガとその仲間たち ～愛くるしい小動物のたくましい生き方！～ 第 5 回：羅臼の磯の生物 ～意外と知らない水の中！～ 第 6 回：知床の鳥類 ～希少な鳥と増えすぎている鳥～ 第 7 回：知床岬の今！ ～世界遺産の核心地、岬で今なにが？！～	
その他	来年度も継続	

番号	主体	名称
2	環境省	羅臼自然保護官事務所主催の自然観察会の実施
開催日		第1回：平成20年10月5日 第2回：平成21年3月20日
参加人数		延べ29名
内容		平成20年度より羅臼自然保護官事務所主催の自然観察会を実施。羅臼ビジターセンターを中心とする羅臼温泉周辺で国立公園の魅力や法制度概要、世界自然遺産地域の価値などを自然散策を行いながら広く普及・理解頂くことを目的として、一般公募により開催。 (実施内容) 第1回：秋の紅葉、サケ・マスの遡上などを観察するほか、間欠泉を見学。 第2回：スノーシューで羅臼温泉周辺を歩き、自然観察を行う。 知床の魅力や冬期のマナー等普及啓発を図る。
その他		来年度も継続予定

番号	主体	名称
3	環境省	羅臼ビジターセンター活動推進業務における四季のイベント開催
開催日		
参加人数		
内容		平成20年度より羅臼ビジターセンター活動推進業務の一環として、四季毎のイベントを実施している。イベントは自然に関するテーマ以外にも歴史や文化に触れたものも行っており、地域住民を中心とする参加のもと行われている。
その他		

番号	主体	名称
4	環境省	知床世界自然遺産地域科学委員会地元報告会
開催日		斜里町：平成20年11月18日（斜里町立知床博物館） 羅臼町：平成20年11月19日（羅臼町公民館）
参加人数		斜里町：約80名、羅臼町：約70名
内容		地元住民に科学委員会の議論が正確に伝わっていない、科学委員の顔が見えないことが問題といった指摘を受け、科学委員会での議論内容や知床での調査について、科学委員から地元住民への報告会を斜里町、羅臼町で開催し、それぞれ約80名、約70名の住民が参加し、本報告会の今後の継続、拡充を求める声や科学委員会への要望などがあった。 (実施内容) 調査の現状と今後の方向性について 報告 知床の海とその管理 知床世界自然遺産海域の生態系の保全と持続的漁業 桜井 泰憲（海域ワーキンググループ座長） 報告 河川工作物の改良とサケ科魚類 中村太士（元河川工作物ワーキンググループ座長） 報告 エゾシカの急増とその影響 梶 光一（エゾシカワーキンググループ座長） 質疑・懇談（30分程度）
その他		来年度も継続予定。

番号	主体	名称
5	環境省	知床世界自然遺産生態系調査報告会の開催
開催日	平成 21 年 2 月 4 日	
参加人数	約 100 名	
内容	<p>知床半島およびその周辺海域をフィールドとして実施された調査研究の成果について、多分野の研究者、専門家および関係行政機関が一堂に会して、報告会を実施した。</p> <p>(実施内容)</p> <p>調査結果の発表</p> <p>陸域生態系(エゾシカ・植生)5名</p> <p>陸域生態系(鳥類・陸上哺乳類)3名</p> <p>河川生態系3名</p> <p>海洋生態系5名</p> <p>社会環境関連調査3名</p> <p>総合討論</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
6	林野庁	羅臼湖観察会
開催日	平成 20 年 10 月 4 日	
参加人数	36 名	
内容	<p>地域住民を対象に、世界自然遺産地域となった羅臼湖周辺の貴重な森林生態系の保全等について高山帯の森林や植物の観察から学び、自然環境の保全に対する意識の醸成を図ることを目的に開催。</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
7	林野庁	地域住民を対象とした森林体験教室の開催
開催日	平成 20 年 5 月 9 日～平成 21 年 3 月 5 日	
参加人数	約 100 名	
内容	<p>自然観察や木工などの様々な森林とのふれあいから、森林生態系や森林保護、森林を利用する意義などを理解してもらうために開催。</p> <p>5月9日(金) 知床ボランティア等活動拠点施設オープン記念「ネイチャークラフト体験」</p> <p>6月14日(日)炭焼き体験と幻の沼「ポンホロ沼」を発見しよう</p> <p>7月10日(木)可憐な花を求めて神秘の羅臼湖に行こう</p> <p>7月30日(木)夏休み企画 森の恵みとふれあう木工教室</p> <p>10月5日(日)紅葉に染まった知床の風景を撮ろう</p> <p>10月19日(日)森の恵みを使って草木染め</p> <p>12月3日(水)森の恵みを使ってクリスマス作り</p> <p>1月10日(日)冬休み企画 親子ネイチャークラフト体験</p> <p>2月12日(木)冬ならではの!静寂の知床の森を歩く♫で散策しよう</p> <p>3月5日(木)早春の知床!かんじきを使って冬の森林を散策しよう</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
----	----	----

8	北海道	知床教室の開催
開催日	平成 21 年 6 月 6 日, 7 月 14 日, 10 月 30 日, 11 月 11 日, 11 月 13 日, 12 月 12 日 平成 22 年 1 月 28 日, 2 月 10 日	
参加人数	5 0 0 名	
内容	札幌周辺の小学校 8 校で、知床の素晴らしさや保全の大切さを伝える出前授業を実施した。	
その他	来年度も要望があれば対応する。	

番号	主体	名称
9	斜里町	しれとこの森交流事業
開催日	平成 20 年 7 月 30 日 ~ 平成 20 年 11 月 4 日	
参加人数	159 名	
内容	<p>第 29 回知床自然教室 (7 月 30 日 ~ 8 月 5 日) 運動参加者と町内小中高校生を対象にした野外体験事業。</p> <p>第 12 回しれとこ森の集い (10 月 19 日) 運動参加者と町民を対象に、森づくりの現場見学と記念植樹を実施。</p> <p>第 12 回森づくりワークキャンプ (10 月 30 日 ~ 11 月 4 日) 運動地における森林再生作業をスタッフとともに実施。</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
10	斜里町教育委員会	斜里町内の学生を対象としたイベント
開催日	平成 20 年 6 月 20 日 ~ 平成 21 年 2 月 28 日	
参加人数	119 名	
内容	<p>世界遺産知床体験学習事業 (6/20, 23, 7/2, 8) 斜里中学校 1 年生を対象に、知床半島斜里側で船による自然観察会および事前学習を実施。104 名参加。</p> <p>流氷の海の動物観察会 (知床博物館) 小学 4 年生から高校生を対象に、知床半島羅臼側で船による流氷の海の動物観察会を実施 (2/28)。15 名参加。羅臼町教育委員会と共催</p>	
その他	来年度も継続予定。	

番号	主体	名称
11	羅臼町	羅臼町内の学生を対象としたイベント
開催日		
参加人数		
内容	<p>第 26 回ふるさと少年探検隊 (7 月 28 日 ~ 8 月 2 日) 町内小学生から中学生を対象に相泊から海岸線を踏破する野外体験事業を羅臼町教育委員会と子ども会育成協議会の共催で実施し、20 名が参加。</p> <p>ふるさと体験教室 地元を自然を楽しみながら学ぶことを目的に羅臼町教育委員会が主催。9 回実施し、延べ 66 人の地元小学生が参加。</p>	

	オジロ・オオワシ観察会 羅臼町教育委員会主催事業。海上よりオジロワシ、オオワシ、アザラシ等を観察。天然記念物や生態系に対する理解を深める。
その他	来年度も継続予定。

番号	主体	名称
12	羅臼町	羅臼地区中高一貫教育
開催日		
参加人数		
内容		中学から高校の6年間を連携してきめ細かな授業を目指す。 カリキュラムの中には、知床の自然環境や水産業、観光などを通じた人間との関わりについての課程を設け、世界遺産登録地域に住む住民としての誇りをもてる人材の育成を図る。
その他		来年度も継続予定。

番号	主体	名称
13	実行委員会	知床雪壁ウォーク 知床紅葉ウォーク
開催日		平成20年4月19日、10月4日
参加人数		252名
内容		知床雪壁ウォーク 知床横断道路では春が近づくとゴールデンウィーク前の開通をめざし、北海道開発局による除雪作業が始まる。この一部を前年同様に開放し、雪に覆われた羅臼岳を望みながらウォーキングを楽しむとともに除雪作業を見学。自然保護と道路維持の大切さを知ることがを目的に実施。 4/19に開催し、124名が参加した。 知床紅葉ウォーク 知床横断道路を歩きながら、大自然が織り成す紅葉の素晴らしさを味わうとともに、貴重な自然の保全意識の高揚を図ることを目的に実施。 10/4に開催し、128名が参加した。
その他		来年度も継続予定。 実行委員会（斜里町、羅臼町、知床斜里町観光協会、知床羅臼町観光協会、読売新聞北海道支社）

普及啓発資料

番号	主体	名称	概要	備考
1	環境省	知床世界自然遺産地域の有する世界的に顕著な普遍的価値（OUV）に関する環境教育プログラムの検討	地域住民及び知床を訪れる生徒児童が、知床が有する世界的に顕著な普遍的価値（OUV：Outstanding Universal Value）について分かりやすく認識することができるような資料を作成する。	地域の小中学校に配布するとともに、世界遺産センター等において活用していく。
2	環境省	羅臼ビジターセンター関連パンフレット等の作成と配布。	羅臼ビジターセンターの館内概要パンフを道東の関連施設や札幌駅構内の観光案内所にも配布している。ま	平成21年度は中国語版、韓国語版について検討。

			た館内展示の英訳解説ブックも作成した。	
3	環境省	羅臼ビジターセンターウェブサイトの運用	平成 19 年度より新たに羅臼ビジターセンターのホームページを公開した。知床国立公園の主に羅臼側の自然や歩道・道路・野営場といった利用施設について、最新の情報を全国へ発信している。今後も内容の充実を図り、世界遺産や利用適正化にかかる情報提供を行う予定。 http://rausu-vc.jp/	平成 21 年度も引き続き内容の充実を図りながら、情報更新を行っていく。
4	環境省	知床データセンターの整備	平成 17 年度から運用開始している知床データセンターについて、データの整理、機能の見直し、他の HP との関係などを含めた知床データセンターの方向性について昨年度行われた検討結果を踏まえ、HP のバージョンアップを行った。	今年度完成予定。
5	林野庁	「知床永久の森林づくり協議会」によるパンフ等の作成	平成 19 年 7 月に設置された「知床永久の森林づくり協議会」では、年間 2～3 回の協議会を開催し、知床における国民参加の森林づくり活動の推進について検討し、これまでに、協議会の取組を PR するパンフレットの他、「森林づくり応援マップ」(斜里町版、羅臼町版)、「森林環境教育ガイド」などを作成。また、平成 20 年度には同協議会の HP を作成。	今後も継続して協議会を開催する。
6	北海道	Web 版しれとこ教室の运营管理	出前授業「しれとこ教室」のストーリーをベースに、ホームページに Web 版を平成 20 年 3 月に作成し、运营管理を行っている。	継続
7	北海道	エコツアー地域資源の Web 情報発信	平成 18 年度に調査したエコツアー地域資源 178 箇所を広く情報発信するため、ホームページに Web 版「eco 旅ナビ」を作成し、运营管理を行っている。	継続
8	北海道	山岳トイレ問題に関する普及啓発資材作成・配布	携帯トイレの普及啓発のため、ポスター及びリーフレットを作成。	継続
9	北海道開発局	知床横断道路「今日の知床峠」、「通行規制情報」の HP	釧路、網走開発建設部 HP において、知床横断道路の通行規制情報を掲載	継続

		掲載	している。	
10	カムイワッカ地区 自動車利用適正化 対策連絡協議会	知床国立公園マイカー規制に係るチラシの作成・配布	道道知床国立公園カムイワッカ方面の通行止め及びシャトルバス運行等についてのチラシを作成。	継続
11	知床世界自然遺産 地域連絡会議	知床世界遺産シンボルマークの策定	知床世界遺産のアピールのため、シンボルマークを公募により選定した。	民間団体等の利用を推進していく。

4. 各種会議等の実施状況

(1) 知床世界自然遺産地域連絡会議

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年11月20日(木) 10:00～12:00	羅臼町商工会館 2階ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産委員会等からの勧告について ・科学委員会の経過及び今後の予定について ・平成20年度調査・事業計画について ・利用の適正化に係る検討状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・知床世界遺産シンボルマークの策定について ・地域連絡会議等の今後の予定について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年2月26日(木) 13:30～16:00	斜里町産業会館 2階大ホール	<ul style="list-style-type: none"> ・科学委員会の経過及び今後の予定について ・平成20年度調査・事業実施状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・知床世界遺産シンボルマークの策定について ・知床世界遺産センター及びルサフィールドハウスについて ・地域連絡会議等の今後の予定について ・その他

会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 地域連絡会議

(2) 知床世界自然遺産地域科学委員会

科学委員会

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年11月19日(水) 13:00～16:00	羅臼町商工会館	<ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産委員会等からの勧告について ・各ワーキンググループの検討状況及び河川工作物の改良等について ・平成20年度調査・事業計画について ・利用の適正化にかかる検討状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・今後のモニタリングの進め方について ・科学委員会等の今後の予定について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年2月3日(火) 13:00～16:00	北海道自治労会館 (札幌市)	<ul style="list-style-type: none"> ・各ワーキンググループの検討状況及び河川工作物の改良等について ・平成20年度調査・事業実施状況について ・知床世界自然遺産地域管理計画の策定について ・今後のモニタリングの進め方について ・知床データセンター等における情報の集約・提供について ・科学委員会等の今後の予定について ・その他

会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 科学委員会 + 各WG

エゾシカワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年6月25日(水) 13:30～16:00	釧路地方合同庁舎5階第1会議室	<ul style="list-style-type: none"> ・ユネスコ世界遺産センターによる保全状況調査報告書について ・平成19年度・H20シカ年度(4～5月)知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画の実施結果について ・H20シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画(改訂案)について ・その他
平成20年度 第2回	平成21年1月13日(火) 13:30～16:30	釧路市観光国際交流センター視聴覚室	<ul style="list-style-type: none"> ・知床世界自然遺産地域管理計画について(報告) ・H20シカ年度知床半島エゾシカ保護管理計画実行計画の実施状況について ・次期シカ年度事業について ・知床におけるエゾシカに関する指標開発について

			・その他 次回のエゾシカワーキングスケジュールについて
--	--	--	--------------------------------

会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 科学委員会 + 各 WG

海域ワーキンググループ

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 21 年 1 月 22 日（木） 14:00～	プレスト 1・7 2 階会議室 A～C	・知床世界自然遺産地域管理計画について ・海域管理計画定期報告書について ・モニタリングについて ・その他

会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 科学委員会 + 各 WG

（ 3 ） 知床国立公園利用適正化検討会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 7 月 22 日（火） 13:30～15:30	斜里町産業会館 2 階大ホール	（中央部地区作業部会同時開催） ・知床半島中央部地区利用の心得について ・平成 20 年度知床半島中央部地区利用適正化実施計画について 羅臼岳登山者における携帯トイレ利用促進について 知床国立公園マイカー規制に係る利用者動態予測調査について ・報告事項 知床国立公園ガイドブック（日本語版・英語版）の作成について
平成 20 年度 第 2 回	平成 21 年 3 月 17 日（火） 13:30～15:45	釧路地方合同庁舎 5 階共用第 1 会議室	・平成 20 年度知床国立公園利用状況報告 ・平成 21 年度利用適正化実施計画の策定について 知床五湖地区の利用の適正化の推進 羅臼岳登山における携帯トイレの利用促進等 ・その他

会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 利用適正化検討会議

（ 4 ） 知床^{とわ}永久^{もり}の森林づくり協議会

協議会

	開催日時	開催場所	議題
第 4 回知床永久の 森林づくり協議会	平成 20 年 7 月 9 日（水） 13:00～15:30	北海道森林管理局 大会議室（3 階）	・今年度の協議会の進め方について ・育樹祭ツアー（9 月開催）の企画・検討状況について ・ホームページの開設について ・国民参加の森林づくり活動を進める上での課題等について（委員によるプレゼン） ・その他
第 5 回知床永久の 森林づくり協議会	平成 21 年 2 月 24 日（火） 13:15～16:00	北海道森林管理局 大会議室（3 階）	（ 1 ）平成 20 年度の取組報告 ）受入体制検討チームの検討結果 ）新たな体制検討チームの検討結果 ）生物多様性委員会による現地検討実施結果 ）具体的活動実績報告 知床ボランティア活動施設の活動実績報告 ホームページの開設状況 モデルツアーの実施等 （ 2 ）平成 21 年度の取組・体制について ）委員及び部会について ）協議会の進め方等について

会議資料（議事次第・配布資料・議事概要）は、「知床永久の森林づくり協議会」ホームページで公開されている。

<http://www.shiretoko.go.jp/moridukuri/>

実行体制検討部会

	開催日時	開催場所	議題
第1回実行体制検討部会(新たな体制検討チーム)	平成20年9月4日(木) 14:30~16:30	知床ボランティア活動施設	・知床永久の森林づくり活動予定地について ・企業からの支援の確保について ・一般からの支援の確保について ・その他
第1回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成20年9月5日(金) 13:00~15:00	知床ボランティア活動施設	・受入体制について ・森林づくり活動への参加の動機付けについて ・その他
第2回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成20年11月13日(木) 12:45~14:45	知床森林センター	・受け入れの形態や手法について ・長期的な目標や計画などの設定について ・ターゲットの設定と集客方法について ・その他
第2回実行体制検討部会(新たな体制検討チーム)	平成20年11月28日(金) 13:15~15:15	北海道森林管理局 中会議室	・エコロジカル体験ツアーにおける今後の展開について ・NPOによる国民参加型の活動事例 ・受入体制の整備について ・その他
第3回実行体制検討部会(受け入れ体制検討チーム)	平成21年1月22日(木) 13:00~15:00	知床森林センター	・集客・ターゲット層について ・プログラムやメニューの具体化について ・国有林フィールドの活用について ・その他

会議の概要は、「知床永久の森林づくり協議会」ホームページで公開されている。

<http://www.shiretoko.go.jp/moridukuri/>

(5) 知床エコツーリズム推進協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年5月29日(木) 13:00~	ウトロ漁村センター	・平成19年度事業実施報告 ・平成20年度事業計画案
平成20年度 第2回	平成20年6月17日(火) 14:00~	羅臼町商工会館	・平成19年度決算報告 ・平成19年度監査報告 ・平成20年度事業予算案

(6) 知床五湖の利用のあり方協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成21年2月19日(木) 13:00~15:00	ウトロ漁村センター 2階会議室	・知床五湖の利用のあり方協議会について ・知床五湖の利用適正化の推進について ・協議会のスケジュール ・ヒグマ活動期の利用のあり方について ・その他

会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > 利知床五湖の利用のあり方協議会

(7) カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成20年度 第1回	平成20年6月3日(火) 13:00~15:30	ゆめホール知床 公民館ホール	・平成19年度収支決算報告について ・平成19年度会計監査報告について ・平成20年度自動車利用適正化対策の方針及び実施内容について ・対応方針及び実施内容について ・道道の工事状況と安全対策について ・通行許可証発行における事項について ・平成20年度収支予算(案)について ・その他

平成 20 年度第 2 回	平成 21 年 1 月 29 日(木)	ゆめホール知床 公民館ホール	カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会について・ ・平成 20 年度自動車利用適正化対策の実施結果について 現地管理連絡調整業務報告 利用者等動向調査結果 ・平成 21 年度の対応方針について 対応方針(案) 平成 21 年度シャトルバス運行スケジュール案について カムイワッカ湯の滝の利用について 道道知床公園線の工事進捗状況及び実施予定について ・その他 平成 23 年度以降の現規制区間のマイカー規制の課題について 知床国立公園マイカー規制にかかる利用動態予測調査について・
---------------	---------------------	-------------------	--

会議資料(議事次第・配布資料・議事概要)は、「知床データセンター」で公開されている。

<http://dc.shiretoko-whc.com/> HOME > 会議資料 > カムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡会

(8) しれとこ 100 平方メートル運動地森林再生専門委員会議

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 12 月 5 日(金) 9:30 ~ 16:00	斜里町役場 2 階 大会議室	・平成 20 年度作業実施結果について ・平成 21 年度作業計画案について ・運動地内のシカの取扱いについて ・運動地公開事業について ・100 平方メートル運動の森・トラストへの ・寄付の現状について ・その他(関連事業・会議結果報告等)

会議は公開で開催されている。会議に関する問い合わせは事務局(斜里町総務環境部環境保全課)まで。

(9) カムイワッカ湯の沢利用対策連絡協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回 現地調査	平成 20 年 7 月 9 日(水) 13:30 ~ 15:30 (現地時間)	カムイワッカ湯 の滝	H20/7/13 の供用開始を前にした協議会としての現地確認 4 の滝右岸斜面の定点定時撮影カメラの設置 注:平成 20 年度の利用方針は、H20/1/18 に開催した協議会 において既に決定しているため、開始直前に会議を開催せ ずに現地調査を行ったもの。
平成 20 年度 第 2 回 現地調査	平成 20 年 9 月 22 日(水) 14:10 ~ 15:50 (現地時間)	カムイワッカ湯 の滝	湯の滝の落石状況(特に 4 の滝右岸斜面)の確認及び定点定 時撮影カメラの撤去
平成 20 年度 第 1 回 協議会	平成 21 年 2 月 6 日(金) 14:00 ~ 15:40	斜里町役場 2 階 大会議室	平成 20 年度シャトルバスの利用状況報告 平成 20 年度ヒグマの出没状況報告 平成 20 年度湯の滝の監視員報告及び利用状況報告 平成 20 年度現地調査結果(落石状況等)の報告及び平成 21 年度現地調査計画の協議 平成 21 年度利用対策方針の協議

会議及び会議記録は非公開である。会議に関する問い合わせは事務局(斜里町経済部商工観光課)まで。

(10) 羅臼町・知床世界自然遺産協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 20 年 7 月 17 日(木) 15:00 ~ 17:00	羅臼町役場	第 32 回世界遺産委員会の開催結果について ルサ・フィールドハウスについて 知床世界自然遺産に係る各種取り組み状況・各種会議について
平成 20 年度 第 2 回	平成 21 年 2 月 17 日(火) 14:30 ~ 16:00	羅臼町役場	ルサ・フィールドハウスの運営について ルサ・フィールドハウスの名称について 知床世界自然遺産に係る各種取り組み状況・各種会議について

会議に関する問い合わせは事務局(羅臼町環境管理課)まで。

(1 1) 知床世界遺産施設等運営協議会

	開催日時	開催場所	議題
平成 20 年度 第 1 回	平成 21 年 3 月 27 日 (金) 12:00 ~ 12:45	ゆめホール知床	知床世界遺産施設等運営協議会の発足について 各施設の管理運営体制について 運営協議会の事業計画案について 今後のスケジュールについて その他

会議に関する問い合わせは環境省釧路自然環境事務所まで。